授業科目名： メディア情報論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 河原崎　貴光 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・絵画（映像メディア表現を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

情報メディアにおける表現の歴史と現状を理解する。

授業の概要

主にメディアに流通する複製芸術を中心として図版，映像資料等を紹介解説していく。授業中に小レポートを課すこともある。

授業計画

第１回：映画以前の映像技術、映画誕生

第２回：映画1920年代

第３回：音と映像

第４回：アメリカのアニメーション

第５回：チェコのアニメーション

第６回：フランスのアニメーション

第７回：ロシアのアニメーション

第８回：日本のアニメーションの歴史

第９回：日本のアニメーション

第１０回：実験(的)映像

第１１回：美術と映像

第１２回：メディアアート

第１３回：コンピュータグラフィックス

第１４回：ゲーム映像

第１５回：スペクタクル、身体

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

小レポート

授業科目名： メディア表現	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 河原崎貴光 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・絵画（映像メディア表現を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

メディア表現について理解し，作品制作ができるようになる。

授業の概要

メディアアート，現代美術，写真表現，映像表現，絵画表現，漫画表現，ゲーム，等の所謂メディア芸術と呼ばれる作品制作と研究を行う。

授業計画

第１回：メディア表現の現状1 メディア表現とは何かを解説
第２回：メディア表現現状2 メディア表現の実例を紹介
第３回：メディア表現のプランニング1 企画書の作成方法を解説
第４回：メディア表現のプランニング2 コンセプトを考える
第５回：メディア表現のプランニング3 企画書の作成をする
第６回：メディア表現のプランニング4 企画書のブラッシュアップ
第７回：プランのプレゼンテーション1 考えた企画を発表
第８回：プランのプレゼンテーション2 考えた企画を発表
第９回：作品制作1 設計したプランに基づいた制作方法を検討する
第１０回：作品制作2 作品制作手法の検証
第１１回：作品制作3 実作品を制作
第１２回：作品制作4 作品を完成させる
第１３回：作品制作5 完成した作品のブラッシュアップ
第１４回：完成作品のプレゼンテーション1 完成した作品をプレゼンテーションする
第１５回：完成作品のプレゼンテーション2 完成した作品をプレゼンテーションする

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

課題作品

授業科目名： メディア表現演習Ⅰ （メディアアート）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 河原崎　貴光 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・絵画（映像メディア表現を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

メディアアート表現の理解と作品制作ができるようになる。

授業の概要

メディアアート，現代美術，写真表現，映像表現，絵画表現，漫画表現，ゲーム，等の所謂メディア芸術と呼ばれるフィールドにおいて発表することを前提とした作品制作と研究を行う。

授業計画

第１回：第1回：メディアアートの現状1 メディアアートの歴史
第２回：メディアアートの現状2 メディアアートの現状解説
第３回：メディアアート表現のプランニング1 企画書の作成方法を解説
第４回：メディアアート表現のプランニング2 コンセプトを考える
第５回：メディアアート表現のプランニング3 企画書の作成をする
第６回：メディアアート表現のプランニング4 企画書のブラッシュアップ
第７回：プランのプレゼンテーション1 考えた企画を発表
第８回：プランのプレゼンテーション2 考えた企画を発表
第９回：作品制作1 設計したプランに基づいた制作方法を検討する
第１０回：作品制作2 作品制作手法の検証
第１１回：作品制作3 マケットの作成
第１２回：作品制作4 マケットを基に実作品を制作
第１３回：作品制作5 作品の完成と展示
第１４回：完成作品のプレゼンテーション1 完成した作品をプレゼンテーションする
第１５回：完成作品のプレゼンテーション2 完成した作品をプレゼンテーションする

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

課題作品

授業科目名： メディア表現演習Ⅰ （インスタレーション）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 河原崎　貴光 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・絵画（映像メディア表現を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

メディアアート表現の理解と作品制作ができるようになる。

授業の概要

メディアアート，現代美術，写真表現，映像表現，絵画表現，漫画表現，ゲーム，等の所謂メディア芸術と呼ばれるフィールドにおいて発表することを前提とした作品制作と研究を行う。

授業計画

第１回：インスタレーションの現状1 インスタレーションの歴史
第２回：インスタレーションの現状2 インスタレーションの現状解説
第３回：インスタレーション表現のプランニング1 企画書の作成方法を解説
第４回：インスタレーション表現のプランニング2 コンセプトを考える
第５回：インスタレーション表現のプランニング3 企画書の作成をする
第６回：インスタレーション表現のプランニング4 企画書のブラッシュアップ
第７回：プランのプレゼンテーション1 考えた企画を発表
第８回：プランのプレゼンテーション2 考えた企画を発表
第９回：作品制作1 設計したプランに基づいた制作方法を検討する
第１０回：作品制作2 作品制作手法の検証
第１１回：作品制作3 マケットの作成
第１２回：作品制作4 マケットを基に実作品を制作
第１３回：作品制作5 作品の完成と展示
第１４回：完成作品のプレゼンテーション1 完成した作品をプレゼンテーションする
第１５回：完成作品のプレゼンテーション2 完成した作品をプレゼンテーションする

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

課題作品

授業科目名： アート表現基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 佐原　理 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・絵画（映像メディア表現を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

本授業ではアートによる表現に親しみを持ち、絵画や映像など多様な表現技法に触れ、技法やその背景にある考え方などを理解する。

授業の概要

絵を描くという表現行為から派生し、現代では多様なツールを用いた表現が為されている。そうした表現のエッセンスを体験し、６つのE（Explain, Experience, Experiment,Express, Exhibit and Explicit)を通して表現することへ親しみその価値について学ぶ。

授業計画

第１回：イントロダクション：表現の歴史
第２回：絵画系表現１：現代のアート表現技法を紹介　(Explain)
第３回：絵画系表現２：現代のアート表現技法を体験する（Experience and Experiment)
第４回：絵画系表現３：現代のアート表現技法で表現する１(Express)
第５回：絵画系表現４：制作時間―多様な感覚を用いて表現する
第６回：絵画系表現５：制作時間―多様な素材と技法を用いて表現する
第７回：絵画系表現６：現代のアート表現技法で展示し解説する（Exhibit and Explicit)
第８回：映像・空間表現１：現代のアート表現技法を紹介　(Explain)
第９回：映像・空間系表現２：現代のアート表現技法を体験する（Experience and Experiment)
第１０回：映像・空間系表現３：現代のアート表現技法で表現する１(Express)
第１１回：映像・空間系表現４：制作―プリプロダクション
第１２回：映像・空間系表現５：制作―プロダクション
第１３回：映像・空間系表現６：制作―リプロダクション
第１４回：映像・空間系表現７：現代のアート表現技法で展示する(Exhibit)
第１５回：映像・空間系表現８：解説する(Explicit)

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

適宜プリントを配布する.

学生に対する評価

発想・構想を高め表現するパフォーマンス能力を作品に関わるルーブリック評価や展示解説、またはレポート等で評価する。作品制作に関わるルーブリック評価60%, 解説/レポート40%

授業科目名： 絵画演習Ⅰ（映像メディア表現を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：鈴木久人 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・絵画（映像メディア表現を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

絵画を描こうとするものは対象物から受けた印象や感動を平面に定着するため，ある程度の技術と知識を必要とする。本授業は絵画制作の基礎的技能と知識の獲得とあわせて，観念的とらえ方を越えた自然や物と対話する喜びを認識することを目的とする。鉛筆画，油彩画に関する描写力，描画材料に関する知識，観察力及び構成力を付けることができる。

授業の概要

・視覚により外界を客観的に捉える。
・鉛筆画，油彩画制作材料の特性を知る。
・無彩色画，有彩色画の表現について考察し，向上を図る。
・映像メディア表現を体験し，その概念を検討する。

授業計画

第１回：オリエンテイション（第 7・15 週の映像メディア表現での課題説明を含む），鉛筆デッサン，素描の材料，道具や技法の解説，
第２回：鉛筆デッサン
第３回：鉛筆デッサン
第４回：鉛筆デッサン
第５回：鉛筆デッサン
第６回：鉛筆デッサン，発表と鑑賞会
第７回：映像メディア表現実習
第８回：静物油彩画，油彩画の材料，道具や技法の解説
第９回：静物油彩画
第１０回：静物油彩画
第１１回：静物油彩画
第１２回：静物油彩画
第１３回：静物油彩画
第１４回：静物油彩画，発表と鑑賞会
第１５回：映像メディア表現実習，発表と鑑賞会

テキスト

教科書は特には指定しない。
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領(平成 29 年告示, 文部科学省) 造形の基礎を学ぶ　藤村克裕　角川書店, 洋画を学ぶⅠ　京都造形芸術大学編　角川書店 出題されたモチーフや個々の学生がもつ課題などにより適宜，参考文献や参考図版を紹介する。
学生に対する評価 授業への取り組み状況，宿題作品への取り組み，授業時間外の制作の有無や提出作品等を総合的に判断する。

授業科目名： 絵画演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 古草敦史 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・絵画（映像メディア表現を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

絵画制作におけるテーマの設定、モチーフの選択を通して多様な表現の探究を行い、画材の特性を生かし、発展的に用いることや自己のテーマとして感性豊かな絵画表現を目指すことができるようにする。また、自身の作品を批判的に評価できるようにする。

授業の概要

水性絵の具と紙を用いて多様な表現を実験的に試みるなかで、自己の志向性を検討し絵画の可能性を研究するための演習を行う。

授業計画

第１回：色彩研究①テーマ・画材設定、制作
第２回：色彩研究②制作・受講生相互のディスカッション
第３回：各自モチーフの形態研究①テーマ・画材の設定、制作
第４回：各自モチーフの形態研究②制作
第５回：各自モチーフの形態研究③制作・受講生相互のディスカッション
第６回：構想画制作Ⅰ「自然」をテーマとして①画材設定、制作
第７回：構想画制作Ⅰ「自然」をテーマとして②制作
第８回：構想画制作Ⅰ「自然」をテーマとして③制作・受講生相互のディスカッション
第９回：構想画制作Ⅱ「様々な事柄の状態」をテーマとして①画材設定、制作
第１０回：構想画制作Ⅱ「様々な事柄の状態」をテーマとして②制作
第１１回：構想画制作Ⅱ「様々な事柄の状態」をテーマとして③制作・受講生相互のディスカッション
第１２回：構想画制作Ⅲ「様々な表現方法」をテーマとして（映像・メディア表現を含む）①画材設定、制作
第１３回：構想画制作Ⅲ「様々な表現方法」をテーマとして（映像・メディア表現を含む）②制作
第１４回：構想画制作Ⅲ「様々な表現方法」をテーマとして（映像・メディア表現を含む）③制作・受講生相互のディスカッション
第１５回：全体講評・まとめ

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

教員作成Power Point

学生に対する評価

出席態度及び発言貢献度（30%），学習成果物（70%）

授業科目名： 絵画ⅡＡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 古草 敦史 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・絵画（映像メディア表現を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

自己の興味のありどころを見つけ、探し出したモチーフと古今の画家の作品研究によって充実した画面構成を追求する。

授業の概要

与えられてモチーフと各自の構想による制作によって、学校現場で美術を教える際に必要となるデッサン、彩画の実技力の向上を図る。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：構想エスキース制作①（エスキース制作・モチーフと構想の研究）

第３回：構想エスキース制作②（エスキース制作・モチーフと構想の応用的な研究）

第４回：構想エスキース制作③（エスキース制作・モチーフと構想の発展的な研究）

第５回：構想エスキース制作④（エスキースについて受講者相互のディスカッション）

第６回：油彩構想画制作①（下絵制作・デッサンの研究）

第７回：油彩構想画制作②（下絵制作・デッサンの応用的な研究）

第８回：油彩構想画制作③（本制作・色彩・マチエールの研究）

第９回：油彩構想画制作④（本制作・色彩・マチエールの応用的な研究）

第１０回：油彩構想画制作⑤（本制作・色彩・マチエールの発展的な研究）

第１１回：油彩構想画制作⑥（本制作・総合的な要素の研究）

第１２回：油彩構想画制作⑦（本制作・総合的な要素の応用としての研究）

第１３回：油彩構想画制作⑧（本制作・総合的な要素の発展としての研究）

第１４回：油彩構想画制作⑨（本制作・総合的な要素の展開としての研究）

第１５回：油彩構想画制作⑩（講評会）

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

若林直樹著『現代美術・入門』JICC出版局1989年 1,540円

学生に対する評価

授業への参加度（30%）、学習成果物（70%）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名： 古草 敦史
絵画ⅡＢ	選択科目	１単位	担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・絵画（映像メディア表現を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

自己の内面を探る主観性とそれを支える客観性を大事にしながら、古今の画家の作品研究によって充実した画面構成を追求する。

授業の概要

各自の構想画制作によって、学校での美術を教える際に必要となる発想の展開力やデッサン、油彩画（場合によっては水性画材）の制作の実技力の向上を図る。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：構想エスキース制作①（エスキース制作・構図の研究）

第３回：構想エスキース制作②（エスキース制作・構図の応用的な研究）

第４回：構想エスキース制作③（エスキース制作・構図の発展的な研究）

第５回：構想エスキース制作④（エスキースについて受講者相互のディスカッション）

第６回：油彩構想画制作①（下絵制作・デッサンの研究）

第７回：油彩構想画制作②（下絵制作・デッサンの応用的な研究）

第８回：油彩構想画制作③（下絵制作・デッサンの発展的な研究）

第９回：油彩構想画制作④（本制作・色彩・マチエールの研究）

第１０回：油彩構想画制作⑤（本制作・色彩・マチエールの応用的な研究）

第１１回：油彩構想画制作⑥（本制作・色彩・マチエールの発展的な研究）

第１２回：油彩構想画制作⑦（本制作・総合的な要素の研究）

第１３回：油彩構想画制作⑧（本制作・総合的な要素の発展としての研究）

第１４回：油彩構想画制作⑨（本制作・総合的な要素の展開としての研究）

第１５回：油彩構想画制作⑩講評会

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

フランク・ウィットフォード 木下哲夫訳『抽象美術入門』美術出版社1999年 2,200円

学生に対する評価

授業への参加度（30%）、学習成果物（70%）

授業科目名： 彫刻研究	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 上月佳代 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・彫刻		

授業のテーマ及び到達目標

造形芸術に関する表現活動における彫刻分野の基礎的な知識や表現能力を習得し，制作実習の授業を行い，立体分野への理解を深める。

授業の概要

彫刻の基礎知識を学んだ上で，線材や面材を使った立体作品を作る事で空間や塊の把握やムーブメント及び抽象彫刻に付いて体験する。応用として石膏を彫り出す彫刻や粘土による彫塑で具象，抽象作品を制作する。これらを学ぶ事で彫刻分野を包括的に学ぶ事ができる。

授業計画

第１回：現代彫刻の諸相について
第２回：線材による抽象表現
第３回：作品批評と鑑賞（抽象作品）
第４回：面材による立体造形
第５回：作品批評と鑑賞（立体造形）
第６回：石膏による具象表現についての説明
第７回：石膏による具象表現（石膏の塊を作る）
第８回：石膏による具象表現（石膏の塊をおおまかに彫る）
第９回：石膏による具象表現（石膏の塊を仕上げ彫りして，磨き，完成）
第１０回：作品批評と鑑賞（具象作品）
第１１回：粘土による抽象表現についての説明
第１２回：粘土による抽象表現（骨組みを作る）
第１３回：粘土による抽象表現（粘土で基本的な塊を作る）
第１４回：粘土による抽象表現（石膏素材の実習）
第１５回：まとめと代表的な現代彫刻の鑑賞

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

参考書 中原祐介著「現代彫刻」美術出版社
適宜プリントを配布する。

学生に対する評価

提出作品で評価する。

授業科目名： 彫刻特別演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：武内優記 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・彫刻		

授業のテーマ及び到達目標

彫刻等の立体表現の中でも空間を含めて作品とする表現方法（インスタレーション）が、人々の体験に変化を与える方法論として用いられている。本授業では、特定の空間を想定した模型によるインスタレーション作品の制作を通して、空間全体を使った表現について考察するとともに、構成力や発想力の進展を図る。また、インスタレーション作品を研究し、そのコンセプトや効果について理解するとともに、現代の社会と連動した表現の多様性の理解に役立てる。

到達目標

・素材の選択から加工，仕上げまで計画的な制作ができる。

・コンセプトと表現の連関について、自分なりの整理ができる。

・習得した知識・技能を作品制作や様々な学びの場へ生かすことができる。

授業の概要

・インスタレーションの特性を理解し、発想や構想の能力の向上を図る。

・模型制作では視点の変化を意識し、素材の選定から加工方法までを習得する。

・空間表現について参考作品を考察するとともに，制作をとおして学んだことを省察し，レポート(800字以上)にまとめて提出する。

授業計画

第１回：授業概説および空間の彫刻及びインスタレーションについて

第２回：フィールドワーク・アイデアスケッチ①（観察）

第３回：フィールドワーク・アイデアスケッチ②（コンセプトノート）

第４回：フィールドワーク・アイデアスケッチ③（採寸・作図）

第５回：模型制作①（製材）

第６回：模型制作②（組立）

第７回：模型制作③（加工・構成）

第８回：模型制作④（構成・着色）

第９回：中間講評　プレゼンテーション

第１０回：インスタレーション①（造形）

第１１回：インスタレーション②（組立）

第１２回：インスタレーション③（配置）

第１３回：インスタレーション④（構成）

第１４回：インスタレーション⑤（仕上げ・記録）

第１５回 : 講評会，かた付け（レポート，作品写真提出）
テキスト 　特になし。
参考書・参考資料等 　適宜，関係資料の紹介・配付を行う。
学生に対する評価 　制作態度や意欲，　研究心（３５％），　作品（５０％），講評会・レポート（１５％）

授業科目名： 映像メディア表現	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 佐原 理 (徳島大学)
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）

授業のテーマ及び到達目標
本授業の目標は美術教育における映像メディア領域がどのような経緯で導入され、どのような能力形成が可能なのか、実践的な授業運営方法論やテクノロジーの活用方法を学ぶことを目標とする。特にデザインとは何かという基礎的な知識を得るとともに、映像によるデザインと映像のデザインの２つの視点から美術教育における映像の活用方法に焦点をおく。

授業の概要
映像のデザインという視点からは主に原初の映像装置による体験等に依拠しながら諸処の映像表現やその方法論について学ぶ。また、映像によるデザインという視点から、主に個人が 20 世紀に撮影・記録した映像群を公共財と位置づけ、そこに映し出された大きな歴史に回収されない貴重な個々の物語に価値を見出しながら、それらが現代のコミュニティーの中で新しい物語を紡ぎ出すための手段とする方法論を学ぶことを通し、デザインすることの基礎的な知識を身につける。

授業計画
第１回：デザインとは何か？イタラティブなデザインプロセスとプロトタイピング
第２回：映像撮影とアニメーションデザインワークショップ１：コマドリでうごかす
第３回：映像撮影とアニメーションデザインワークショップ２：体をつかう
第４回：映像撮影とアニメーションデザインワークショップ３：描き出す
第５回：映像撮影とアニメーションデザインワークショップ４：光をつかう
第６回：映像撮影とアニメーションデザインワークショップ５：自作プレイドーをつくる
第７回：映像のデザイン：制作発表とディスカッション
第８回：映像撮影とアニメーションワークショップ６：クレイアニメーションで表現する
第９回：記録写真とフィールドワーク：白黒写真をカラー化する１（写真画像技術の解説）
第１０回：記録写真とフィールドワーク：白黒写真をカラー化する２（写真画像技術の実践）
第１１回：記録写真とフィールドワーク：プレゼンテーション １（作品のプレゼンテーション）
第１２回：記録写真とフィールドワーク：プレゼンテーション２（作品の講評と展示）
第１３回：マッピングしてストーリを構成する。
第１４回：映像によるデザインの振り返りとディスカッション
第１５回：映像によってデザインするとは？まとめとレポート制作のためのテーマ

テキスト
なし

参考書・参考資料等
・アンソニー・ダン (著), フィオーナ・レイビー (著)「スペキュラティヴ・デザイン 問題解決から、問題提起へ。—未来を思索するためにデザインができること」ビー・エヌ・エヌ新社
・広瀬 秀雄 (著), 矢牧 健太郎「図説 映像トリック—遊びの百科全書」河出書房新社
東京都写真美術館 (監修), 森山 朋絵 (編集)「映像体験ミュージアム—イマジネーションの未来へ」工作舎
・神林 恒道 ふじえ みつる (監修)「美術教育ハンドブック」三元社
・原田 健一, 石井 仁志他「映像は未来とともに懐かしさは未来とともにやってくる:地域映像アーカイブの理論と実際 」学文社

・岩井俊雄「岩井俊雄の仕事と周辺」六耀社 ・Becci Manson「(Re)touching lives through photos 」『Ted.com」 http://www.ted.com/talks/becci_manson_re_touching_lives_through_photos
学生に対する評価 作品のポートフォリオ評価 60％ 最終レポート 40%

授業科目名： デザイン表現演習Ⅰ （映像とデザイン）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 佐原　理 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

映像制作の基本を理解する。映像機器や編集機器の扱いが出来るようになる。

授業の概要

映像制作方法と映像メディア設計の方法論を学び、地域に点在する価値を掘り起こし表現する。

授業計画

第１回：イントロダクション：映像とデザイン
第２回：映像デザインの方法論
第３回：言語から映像言語へ１（方法論を学ぶ）
第４回：言語から映像言語へ２（実践する）
第５回：映像と音声１（方法論を学ぶ）
第６回：映像と音声２（実践する）
第７回：映像と構成１（方法論を学ぶ）
第８回：映像と構成２（実践する）
第９回：映像と構成３（課題の検証）
第１０回：映像制作に関わるメディアリテラシー
第１１回：映像の歴史と原初の映像装置
第１２回：アニメーションによる映像制作（原案作り）
第１３回：アニメーションによる映像制作（画像の編集）
第１４回：アニメーションによる映像制作（編集の修正）
第１５回：制作発表

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

Jeff Skoll「My Journery Movies that matter」『TED.com』
http://www.ted.com/talks/jeff_skoll_makes_movies_that_make_change
Ben Cameron「The True Power of the Performing Arts」『TED.com』
http://www.ted.com/talks/ben_cameron_tedxyyc
Stefan Sagmeister「Happiness by design」『TED.com』
http://www.ted.com/talks/stefan_sagmeister_shares_happy_design
Stefan Sagmeister 「Designing with slogans」『TED.com』
http://www.ted.com/talks/stefan_sagmeister_on_what_he_has_learned

学生に対する評価

授業時の小テストおよび課題制作　評価基準は授業時に提示する。

授業科目名： デザイン表現演習Ⅰ （視覚伝達デザイン）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 佐原　理 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

造形言語の基本を理解し，メディアコンテクストの読み解き能力や制作能力を身につける。

授業の概要

視覚伝達表現のための方法論を学び，受容者側の読み解き能力とともに，制作者としての技法やコミュニケーションの方法論を学ぶ。

授業計画

第１回：オリエンテーション：視覚伝達デザインの射程と授業のガイドラインを確認する
第２回：外界と内界を繋ぐ身体と映像メディアの位置づけ
第３回：色彩とコミュニケーション：色彩原理によるデザイン手法を考える
第４回：色彩コミュニケーション：ワークショップ
第５回：文字によるコミュニケーション：
第６回：タイポグラフィーによる表現：
第７回：造形言語によるコミュニケーション１:構成による表現
第８回：造形言語によるコミュニケーション２：メディアメッセージと媒体との関係
第９回：造形言語によるコミュニケーション３：視覚デザインによる表現
第１０回：造形言語によるコミュニケーション４：視覚デザインによる発展的表現
第１１回：コミュニケーションのためのデザイン表現の手法（マスメディア編）
第１２回：コミュニケーションのためのデザイン表現の手法（アート編）
第１３回：映像表現の広がり：メディア表現とテクノロジー
第１４回：デザイン表現制作実習：デザイン思考の方法論と企画の生成
第１５回：デザイン表現制作実習：プロポーザル制作と発表

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

Marian Bantjes「Intricate beauty by design」『TED.com』
http://www.ted.com/talks/marian_bantjes_intricate_beauty_by_design
Chip Kidd「Designing books is no laughing matter. OK, it is」
http://www.ted.com/talks/chip_kidd_designing_books_is_no_laughing_matter_ok_it_is
Paula Scher「Great design is serious, not solemn」『TED.com』
http://www.ted.com/talks/paula_scher_gets_serious
Thomas Goetz「It's time to redesign medical data」『TED.com』
http://www.ted.com/talks/thomas_goetz_it_s_time_to_redesign_medical_data

学生に対する評価

授業時の課題制作70%，レポートなど30% 評価軸は授業時に紹介する。

授業科目名： 写真画像保存技術概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 佐原　理 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

写真技法の歴史を理解し，またエスノグラフィーによって写真からコンテクストを読みとく方法論を習得する。

授業の概要

記録媒体としての写真がどのように誕生し，その功績によって社会構造がどのように変化したのかを学ぶ。また，エスノグラフィーによって，写真画像からコンテクストを掘り起こす方法論等を学び，写真や記録画像の価値を再考する。

授業計画

第１回：イントロダクション
第２回：デザイン史と映像の役割：映像の誕生を振り返る
第３回：視覚伝達デザインの流れ
第４回：視覚伝達デザインと映像表現の通時的連関
第５回：映像制作の方法論と思考のデザイン
第６回：映像制作の方法論とフィールドワークデザインの手法
第７回：フィールドワークデザイン：記録映像を基にフィールドワークによってコンテクストを読み解く
第８回：記録写真とフィールドワーク：白黒写真をカラー化する１（写真画像技術の解説）
第９回：記録写真とフィールドワーク：白黒写真をカラー化する２（写真画像技術の実践）
第１０回：記録写真とフィールドワーク：プレゼンテーション １（作品のプレゼンテーション）
第１１回：記録写真とフィールドワーク：プレゼンテーション２（作品の講評と展示）
第１２回：写真の価値とアート
第１３回：デザインワークショップ１（作家の表現方法を基に，対象を決める）
第１４回：デザインワークショップ２（対象の撮影と作品制作）
第１５回：デザインワークショップ３（講評と考察）

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

Steve Addis「A father daughter bond one photo at a time」『TED.com』
http://www.ted.com/talks/steven_addis_a_father_daughter_bond_one_photo_at_a_time
JR「My wish: Use art to turn the world inside out」『TED.com』
http://www.ted.com/talks/jr_s_ted_prize_wish_use_art_to_turn_the_world_inside_out/transcript?language=en

学生に対する評価

授業課題及びレポート（ポートフォリオ）による評価

授業科目名： ビジュアルコミュニケーション	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 佐原　理 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

視覚言語の役割や意図を読み解くリテラシーを獲得し，制作する事ができるようになる。

授業の概要

ビジュアルコミュニケーションとは，色や形など記号によるコミュニケーションの手法です。よってビジュアルコミュニケーション＝視覚言語は日本語の習得と同様に重要です。世の中に溢れる視覚言語を読み解く視覚リテラシーとともに，制作活動を通して作り手の視点から理解を深めます。

授業計画

第１回：イントロダクション：ビジュアルコミュニケーションとは？
第２回：ピクトグラムによるコミュニケーション　ピクトグラムと東京オリンピック
第３回：学内のピクトグラムを考えよう１（学内にあるピクトグラムを捜す。）
第４回：学内のピクトグラムを考えよう２（学内に必要なピクトグラムをデザインする。）
第５回：構成による視覚言語で伝える：造形言語
第６回：色彩によるコミュニケーション
第７回：色彩構成によるワークショップ
第８回：タイポグラフィーによる表現
第９回：言葉を視覚で伝えるワークショップ
第１０回：商品開発に関わるビジュアルコミュニケーション
第１１回：企画のためのマーケティングストラテジー
第１２回：雑誌制作ワークショップ１（雑誌の原案作り）
第１３回：雑誌制作ワークショップ２（ページ割り）
第１４回：雑誌制作ワークショップ３（デザインする。）
第１５回：プレゼンテーション

テキスト

デービッド・ルーアー『Design Basics　デザインを基礎から学ぶ』ビー・エヌ・エヌ新社，2004もしくは2012

参考書・参考資料等

佐藤 好彦『デザインの教室 手を動かして学ぶデザイントレーニング』MdN，2008
日馬 紀子『決定版 あなたも必ず上達できる！プロのデザイナーになるための本』ソーテック社，2012

学生に対する評価

授業時の小テスト10% プレゼンテーション10% 課題40%　最終課題40%

授業科目名： アーツ・アンド・テクノロジー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 河原崎 貴光 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

人類発生時のイメージの定着方法からコンピュータの普及にともなう新しいメディアを駆使した視覚表現の可能性を含めて考察する。芸術・デザイン表現についての関心を呼び起こし，その基礎知識を提供することにより，現代の社会に適合できる人材養成を図ることを目的とする。

授業の概要

芸術作品とデザインの作例を中心に，図版・映像資料等を紹介解説していく。 授業中に小レポートを課すこともある。

授業計画

第１回：イントロダクション

第２回：芸術・デザインの歴史とテクノロジー

第３回：グラモフォン・フィルム・タイプライター(グラモフォンについて)

第４回：グラモフォン・フィルム・タイプライター(フィルムについて)

第５回：グラモフォン・フィルム・タイプライター(タイプライターについて)

第６回：映画-初期

第７回：映画-ハリウッドシステム

第８回：映画-物語以後

第９回：実験的アニメーション、実験的デザイン

第１０回：プロモーションビデオ

第１１回：アニメ

第１２回：メディアアート、インタラクションデザイン

第１３回：ゲーム-インターフェイスデザイン

第１４回：ゲーム-物語-ライトノベル

第１５回：ネットワーク,AR,ミクスドリアリティ

テキスト

必要があれば適宜授業中に指示をする。

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

授業への取り組み状況，レポートなどにより総合的に評価する。

授業科目名： 工芸表現と技法－木工／金属	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 佐原　理 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・工芸		

授業のテーマ及び到達目標

用の美として、普段の生活を豊かにする美術工芸制作の基礎的な知識や技法について実践知を得ることを目標とする。特に本授業では学校現場でも使用可能なレーザーカッターや3Dプリンターなどの現代的なツールによる作品制作や、七輪による陶芸制作、鍛造、鋳造でのシルバーアクセサリーなどの作品制作ができるようになることを目的とする。

授業の概要

本授業では、デジタルファブリケーションによる木工制作、3Dプリンター型による陶芸、鋳造や鍛造によるリング等のアクセサリー制作を行う。

授業計画

第１回：使用機材の説明とソフトウエア等準備
第２回：デジタルファブリケーションによる家具・小物１　アイディアだし
第３回：デジタルファブリケーションによる家具・小物制作２　図面引き
第４回：デジタルファブリケーションによる家具・小物制作３　加工機による出力
第５回：デジタルファブリケーションによる家具・小物制作４　組み立て
第６回：七輪陶芸：菊練り－手びねりによる制作
第７回：七輪陶芸：加工装飾
第８回：七輪陶芸：加工装飾―雌型制作
第９回：七輪陶芸：加工装飾―成型
第１０回：七輪陶芸：焼成―素焼き
第１１回：七輪陶芸：焼成―本焼き
第１２回：　銀板彫金によるアクセサリー制作・切断・曲げ加工
第１３回：銀板彫金によるアクセサリー制作・彫金/溶接加工
第１４回：銀板彫金によるアクセサリー制作・磨き
第１５回：展示・ディスプレイ

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

適宜プリントを配布する。

学生に対する評価

口頭諮問による加工知識の獲得度合い(30%)とパフォーマンスとしての提出作品(70%)で評価する。

授業科目名： 工芸演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：栗原慶 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・工芸		

授業のテーマ及び到達目標

＜目的及び主旨＞

工芸は生活に根ざした芸術ともいえ，その表現には自然や他者を尊重し対話をしていく姿勢が求められる。工芸観を養うことや工芸制作の技能習得は，素材に対して様々なアプローチを繰り返すことによって達成することができる。このことは，主体的に生きることや文化の創造，豊かな個性を育むことにもつながっていくものと考える。

＜到達目標＞

①楽焼に関する知識と技術を習得する。

②工芸の造形要素と意義を説明できる。

授業の概要

・陶芸制作の基礎的な造形技法を確認するとともに，楽焼技法による焼成を行う。

・「素材」「造形」「機能性」をテーマとした茶碗制作を行う。

授業計画

第１回（１日目）：授業概要の説明と陶芸の造形技法確認

第２回（１日目）：陶芸の造形技法実践

第３回（１日目）：作品（茶碗）制作

第４回（１日目）：作品（茶碗）制作

第５回（１日目）：作品（茶碗）制作

第６回（２日目）：作品の荒削り

第７回（２日目）：作品の仕上げ削り

第８回（２日目）：作品の仕上げ削り

第９回（２日目）：　作品の加飾

第１０回（２日目）：釉薬掛け：乾燥炉で乾燥

第１１回（３日目）：楽窯作り（テント設営）

第１２回（３日目）：楽窯作り（耐火煉瓦とガスバーナーで築窯）

第１３回（３日目）：焼成

第１４回（３日目）：焼成

第１５回（３日目）：窯出し，片付け，作品発表と講評，授業アンケート

テキスト

テキストは特に指定しない。適宜，関連資料を配布する。

参考書・参考資料等 「図画工作・基礎造形-美術教育の内容-」建帛社 「伝統工芸ってなに？」日本工芸会 「はじめての楽焼陶芸」誠文堂新光社
学生に対する評価 授業への参加度（40%），学習成果物（60%）

授業科目名： 美術概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 江川 佳秀 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

日本美術を中心とした絵画，彫刻，工芸等の具体的な作例を通じて，美術作品が伝えるメッセージを読み解く方法（美術理論）を習得する。さらには，日本美術と日本美術に影響を与えた東洋や西洋の美術（美術史）を概観することで，日本美術の背景にある文化思想の特性を考察する。

授業の概要

美術理論及び美術史の基礎として「美術とは何か」と「日本美術を概観する」を論じた後に「作家，作品研究」にて知識を深め東洋や西洋美術との関わりについて論じる。美術館や博物館の企画展を鑑賞して意見を発表する等の実習も含めている。

授業計画

第１回：美術とは何か1(美術という用語が誕生する以前と以降)
第２回：美術とは何か2(日本画と洋画，絵画と平面，彫刻と立体)
第３回：美術とは何か3(美術とアート)
第４回：日本美術を概観する1(仏教美術)
第５回：日本美術を概観する2(やまと絵と漢画)
第６回：日本美術を概観する3(淋派)
第７回：日本美術を概観する4(円山四条派)
第８回：日本美術を概観する5(文人画)
第９回：東西の画題
第１０回：作家，作品研究1(靉光)
第１１回：作家，作品研究2(山下菊二)
第１２回：作家，作品研究3(エコール・ド・パリと日本)
第１３回：作家，作品研究4(近代東アジアの美術交流)
第１４回：実際の作品を前に(展覧会の鑑賞と意見交換)
第１５回：試験，まとめ

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

参考文献の情報は授業時間中に適宜紹介する。

学生に対する評価

平常点と試験の成績(またはレポート)をもとに評価する。
平常点は，見学会での議論への参加の度合いなども参考に評価する。

授業科目名： 芸術文化論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：田中　佳 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

本講義では，今日の芸術文化システムにおいて重要な役割を果たしている美術館を考察の対象とし，その成立過程を歴史的に探ることで，美術と人間，あるいは美術と社会の関わりがどのように変遷してきたかを理解することを目指す。この過程は，美術理論の生成や作品理解の問題とも密接に関わっているため，美術史を別の側面から考察することになるであろう。

授業の概要

初めに美術館という発想が近世ヨーロッパに登場するまでの，美術をとりまく環境の変化について概観する。そのうえで，近代美術館のモデル的な存在である，フランスのルーヴル美術館の創設過程を具体例として取り上げ，ヨーロッパの他のタイプの美術館の例を見た後で，アメリカの事例と比較する。その後，明治期日本に美術館がどのように「輸入」されて今日に至っているかを詳しく論じていく。講義では画像資料を多用し，各美術館の代表的な所蔵作品も取り上げながら話を進めていく。

授業計画

第１回：イントロダクション
第２回：コレクションの形成
第３回：蒐集から鑑賞へ
第４回：美術市場の形成と展覧会の定着
第５回：批評の誕生，鑑賞者の増大
第６回：ルーヴル美術館計画
第７回：フランス革命と美術館
第８回：ヨーロッパの美術館（１）イタリア、ロシア
第９回：ヨーロッパの美術館（２）スペイン、オーストリア
第１０回：ヨーロッパの美術館（３）イギリス、ドイツ
第１１回：アメリカの美術館
第１２回：日本への美術館の「輸入」（１）博覧会、博物館
第１３回：日本への美術館の「輸入」（２）西洋美術
第１４回：現代日本と美術館
第１５回：まとめ

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

未定（講義中に適宜紹介）

学生に対する評価

・平常点（教室での発言，課題，リアクション・ペーパーなど）
・学期末試験（論述問題）
以上を総合的に評価する。

授業科目名： 先端芸術表現論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 佐原 理（徳島大学） 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標
問い：「最先端芸術はいかにして教育的観点から豊かな社会を探求する手段となるのか？」
目標：履修者は上記のテーマに対して表現プロセスのデザインを通して自らの答えを導きだすことを目標とする。

授業の概要
　我が国の美術教育の中心的価値である創造性や感性に根ざした教育という枠組みから、ポストヒューマニズム社会における AI などのテクノロジーが社会の中でどのように位置付けられるのか、最先端芸術の視点から我々の社会の持続可能性や諸侯の課題を探求する。最先端芸術表現がいかに教育的視点からより批判的な知識や地域社会を豊かにする手段となり得るのか、美術・教育の観点から先端芸術を掘り下げる。

授業計画
第１回：イントロダクション：GlobalMediaArts 21 世紀のメディア表現と美術教育
第２回：現代美術：先端芸術は何をみるのか？未来と芸術
第３回：現代美術：先端芸術と教育ー多様性と持続可能性を模索する現場
第４回：先端芸術表現の通時的変遷
第５回：映像ってなんですか？：映像の発見で社会はどうかわった？
第６回：映像と認知の関係：身体への眼差し：生命をみつめる・生命を与える
第７回：映像教育の現場から：映像メディアによる教育は何ができるのか？
第８回：映像メディア表現を実践するー映像：アニメーションと身体
第９回：映像メディア表現を実践するー映像とテクノロジー
第１０回：映像メディア表現を実践するー映像表現と映像による表現
第１１回：映像メディア表現を実践するー映像とメディアの先端
第１２回：映像メディア表現を実践するー美術教育と先端表現
第１３回：美的世界への眼差し：美的表現としてのアニメーションデザイン
第１４回：社会を捉える眼差し：ドキュメンタリーとしてのアニメーションデザイン
第１５回：振り返り：作品制作とレポート提出

テキスト
授業時に指定

参考書・参考資料等
森美術館「未来と芸術 Future and the Arts」美術出版社

学生に対する評価
学習成果物（40%），レポート（60%）

授業科目名： 美術理論・美術史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：小川勝 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

美術の魅力を伝えるためには、日頃から美術作品について考える習慣を身につけておくことが大切である。美術の教員にとっても、それは基本的な資質であるといえよう。美術について受講者独自の考え方が得られれば、本講義受講の目標に到達したといえるだろう。

授業の概要

この講義では、人類最初の美術作品である「洞窟壁画」について詳しく紹介し、その時代的背景や、造形原理、また、使用された材料・技術を見てゆく。さらには、表現された意味内容についても考察を進める。

授業計画

第１回：洞窟壁画の発見・アルタミラⅠ
第２回：大天井画の作品群・アルタミラⅡ
第３回：洞窟壁画の認定・フォン＝ドゥ＝ゴーム
第４回：洞窟壁画の解釈・ニオー
第５回：洞窟壁画の宗教性・ペシュ＝メルル
第６回：洞窟壁画の芸術性・ラスコーⅠ
第７回：情景などの解釈・ラスコーⅡ
第８回：研究の進展・ルフィニャックなど
第９回：海底の洞窟壁画・コスケールⅠ
第１０回：指の欠けた手形・コスケールⅡ
第１１回：最新の大発見・ショーヴェⅠ
第１２回：特異な表現など・ショーヴェⅡ
第１３回：野外の岩面刻画・コアなど
第１４回：立体作品・ホーレ・フェルスのヴィーナスなど
第１５回：人間にとって美術とは何か

テキスト

授業中に適宜指定する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜指定する。

学生に対する評価

レポートにより成績評価する。レポートのテーマは講義の中で随時指定する。

授業科目名： 20 世紀の美術理論と現在	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉川 暢子 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

本授業の目標は美術教育をどのような学説に立って教育するのか、その諸侯の基盤的理論や教育原理を理解することである。さらには、そうした基盤的理論の理解を本授業の礎とした上で、最先端の美術教育研究を学ぶ手続きや研究の現場に学び、将来にわたって持続的に調査研究し教育現場においても最新の学説を学び続ける姿勢を獲得することである。

授業の概要

我が国の美術教育の中心的価値である創造性や感性に根ざした教育を中心的価値に据え置き、本授業ではまず、チゼック、ローウェンフェルド、リードといった美術教育の基盤となる理論発展の歴史を学ぶ。また、20 世紀初頭から現代までの主たる教育原理がどのように美術教育に生かされるのかその基盤を美術教育の観点から学ぶ。その上で 21 世紀の最新の美術教育理論研究や最新の学術成果の調査方法に触れ、継続的に美術教育実践者として教育理論を学びつづける姿勢や方法論を学ぶ。

授業計画

第１回：イントロダクション
第２回：美術教育ってなぜ必要なのですか？
第３回：第二次世界大戦の前後の美術教育・子どもの発見と発達段階そして芸術による人間形成へ
第４回：経験と教育 1ーデューイなど経験に関わる理論
第５回：経験と教育 2ー美術教育から鑑みるデューイなどの経験論
第６回：モンティソーリとエリクソン　メルロー＝ポンティ
第７回：認知の発達と他者/社会との関わり:メルロー＝ポンティやピアジェ：ヴィゴツキー
第８回：他者/社会との関わりー抑圧から対話と民主主義的教育を考える: フレイレ
第９回：映像表現と美術教育：ドゥルーズ
第１０回：社会との接点：歴史・分析・批評、美学、制作－アイスナー
第１１回：多重知性から考える子どもの多様性：ガードナー
第１２回：美術教育研究の最前線１－Arts Based Research など－
第１３回：美術教育研究の最前線２ 認知科学から考える美術教育
第１４回：最新の美術教育は何をあたえる教育なのか？ディスカッション
第１５回：振り返りとまとめレポート作成

テキスト

福田 隆眞 ,茂木 一司, 福本 謹一「美術科教育の基礎知識」建帛社

参考書・参考資料等

Carol Garhart Mooney「Theories of childhood 」Redleaf Press

学生に対する評価

授業時の小レポート 20%　ポートフォリオ評価 60% 最終レポート 20%

授業科目名： 美術教育の未来を考える	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：山田芳明 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

美術教育の通時的変遷を入り口に現代において美術教育に求められる変化をグローバルな視点から眺望しその教育的意義と可能性を理解する。また、SDGsなどの国際的目標においてどのように美術教育が寄与可能なのか、特にインクルーシブ教育の観点からその役割を理解する。さらに美術教育におけるテクノロジーの利活用や求められる汎用的能力の育成といった副次的な役割を理解する。

授業の概要

我が国の美術教育の中心的価値は創造性や感性に根ざした教育にある。本授業ではそうした伝統的な美術教育がどのように変遷し、グローバルな視点から美術教育がどのように位置づけ可能なのか、United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization(UNESCO)やInternational Society for Education through Art(InSEA=国際美術教育学会)といった国際機関の指標に沿って理解する。また21世紀型の能力などの汎用的能力や、SDGsに沿ったインクルーシブ教育など現代の美術教育に求められる諸般の項目について紹介し、実際の教育現場での事例に学ぶ。また、教育現場でどのようにテクノロジーを美術教育に活用可能なのか、上記のグローバルな視点を踏まえ、実際の現場教員や支援企業などからワークショップ形式で学び教育現場での即戦力として活用可能なスキルを身につける。以上を通して日本国の美術教育を省察的に学び、どのように進展すべきか授業実践者とともに考え、美術教育の未来を担う実践的な知識およびスキルを身につけ、持続的に学び続ける姿勢とノウハウを体得する。

授業計画

第１回：　イントロダクション：これまでの美術教育とこれから
第２回：　InSEA は何をしてきたのか？今求められる美術教育の変化
第３回：　持続可能な社会とグローバルアートエデュケーション
第４回：　世界の潮流からみる美術教育のこれから
第５回：　持続可能な社会とインクルーシブ教育
第６回：　インクルーシブ教育の最前線
第７回：　インクルーシブ教育とテクノロジー
第８回：　美術教育とテクノロジー：ギガスクールの現場から１（デジタル端末に触れる）
第９回：　美術教育とテクノロジー：ギガスクールの現場から２　（アプリケーションを知る）

第１０回：美術教育とテクノロジー：ギガスクールの現場から３（制作ツールを知る） 第１１回：美術教育の未来を考える- AI と美術教育 第１２回：美術教育の未来を考える- 求められる資質能力 第１３回：これからの美術教育を担うために：自ら考え未来をつくる教師になるために 第１４回： 総括とまとめ 第１５回： レポート作成とフィードバック
テキスト なし
参考書・参考資料等 神林恒道　ふじえみつる「美術教育ハンドブック」三元社
学生に対する評価 毎授業のレポート40% 最終レポート 60%

授業科目名： 美術科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目（中一種免：美術） 選択科目（高一種免：美術）	単位数： ２単位	担当教員名： 佐原 理 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

中学校および高等学校学習指導要領美術を中心に美術教育の役割について理解し授業担当が可能な知識を獲得する。

授業の概要

この授業は美術教員の免許取得のための科目である. 学習指導要領を中心に中学校美術科および高等学校美術科教育についての知識を深め、中学校美術科および高等学校美術科の役割を理解し授業を組み立てる事が出来るようになるように講義を進める。

授業計画

第１回　美術教育はなぜ必要か？美術教員の役割と進路

第２回　学習指導要領が出来るまでーOECD2030プロジェクトと生きる力

第３回　学習指導要領総則編と美術教育のつながり

第４回　学習指導要領美術編と解説を理解しよう

第５回　美術教育の目標と表現・鑑賞

第６回　感性と情操について

第７回　教科内容学領域の取り扱いー美術の教育と美術による教育

第８回　獲得すべき能力と学習モデル

第９回　発達段階と指導方法

第１０回　クラスルームマネージメントの方法

第１１回　美術教育と言語活動（ＩＣＴの活用）

第１２回　美術教育と身体

第１３回　各社の教科書を参考に指導案を作成しよう

第１４回　指導案の作成と評価方法

第１５回　指導案の作成と模擬授業

テキスト

中学校学習指導要領解説　美術編(最新版)，高等学校学習指導要領解説　美術編(最新版)

参考書・参考資料等

日本文教出版、開隆堂、光村図書　各社の中学校および高等学校向け各学年教科書
学生に対する評価 授業課題及びレポート（ポートフォリオ）による評価

授業科目名： 美術科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目（中一種免：美術） 選択科目（高一種免：美術）	単位数： ２単位	担当教員名： 佐原　理 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

中学校および高等学校学習指導要領美術を中心に美術教育の役割について理解し授業担当が可能な知識・技能を獲得する。

授業の概要

この授業は美術教員の免許取得のための科目である．学習指導要領を中心に中学校美術科教育および高等学校美術科についての知識を深め、各内容領域の表現と鑑賞およびクラスルームマネージメントの方法論を学び、中学校および高等学校の美術科の役割を理解し授業を組み立てる事が出来るようになるように講義を進める。

授業計画

第１回　美術教育の課題と展開
第２回　学習指導要領解説における情報機器の活用と、映像メディア表現の取り扱い
第３回　美術教育の特質的価値へと接続するための授業実践
第４回　絵・彫刻領域の指導方法と学年配置
第５回　デザイン・工芸領域の指導方法と学年配置
第６回　各社の教科書と学習指導要領美術編解説から読み解く（美術1）
第７回　各社の教科書と学習指導要領美術編解説から読み解く（美術2・3上・下）
第８回　米国ナショナルカリキュラムに学ぶ
第９回　ナショナルカリキュラムの評価方法MCAと教材作成方法から実践教材を考える
第１０回　絵画鑑賞と表現の接続を考え教材を開発する
第１１回　彫刻鑑賞と表現の接続を考え教材を開発する
第１２回　指導案の作成と実践モデル（美術1）で模擬授業を行う
第１３回　指導案の作成と実践モデル２（美術2・3）で模擬授業を行う
第１４回　他教科、総合的学習における美術教育の役割
第１５回　美術教員になるための法制と採用試験

テキスト

中学校学習指導要領解説　美術編(最新版)，高等学校学習指導要領解説　美術編(最新版)

参考書・参考資料等

日本文教出版、開隆堂、光村図書　各社の中学校および高等学校向け各学年教科書
学生に対する評価 授業課題及びレポート（ポートフォリオ）による評価

授業科目名： 美術科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目（中一種免：美術） 選択科目（高一種免：美術）	単位数： ２単位	担当教員名： 佐原 理 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

中学校および高等学校の学習指導要領美術の目標及び内容を理解する。

授業の概要

この授業は、美術教員の免許取得のための科目である。学習指導要領を読み解き、中学校および高等学校における美術科の教科内容学の知識と技術を獲得するために、理論体系を理解し実践観察を通して実践の方法論を学ぶ。

授業計画

第１回　中学校および高等学校の美術教育の現在地、今なぜ美術教育が必要なのか。
第２回　中学校美術の目標と高等学校美術の目標を理解し比較しよう。
第３回　目的の理解と重要事項や意味・概念の解説
第４回　美術科の内容　各社の教科書を比較してみよう。
第５回　美術科の内容　中学校各社の教科書を比較しまとめる。
第６回　美術科の内容　高等学校各社の教科書を比較しまとめる。
第７回　美術科の内容　教科書から年間の単元モデルを作成してみよう。
第８回　美術科の授業を観察しよう１
第９回　美術科の授業を観察しよう２
第１０回　美術教育の今＞基礎造形と鑑賞　教科内容学の横断的な取り扱い
第１１回　美術教育におけるICTの活用
第１２回　美術室のつくりかた
第１３回　指導案作成の基礎と模擬授業実践及び評価について
第１４回　子どもへの接し方
第１５回　美術による教育から美術の教育へ　発達段階に合わせた教育法と実践の意義

テキスト

中学校学習指導要領解説　美術編（最新版）
高等学校学習指導要領解説　芸術（音楽・美術・工芸・書道）編（最新版）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

授業課題及びレポート（ポートフォリオ）と模擬授業の評価を総合して評価する。

授業科目名： 美術科教材開発 実践研究	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担　当　教　員　名　： 佐原 理 (徳島大学) 山田 芳明（鳴門教育大学） 吉川 暢子(香川大学)
			担当形態： 複数

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

　中学校および高等学校学習指導要領美術を中心に美術教育の役割について理解し教材開発が可能な知識および技術を獲得する。

授業の概要

　我が国の美術教育の中心的価値である創造性や感性に根ざした教育をどのような観点から構築可能なのか、美術科における教材開発実践の視点から経験的知識を体得したい。そこで、実際の教育現場ですぐに授業設計が可能となるための教材開発の知識を深め、教育現場を模して指導案を組み立て、模擬授業ができるように以下の事業計画に沿って美術教育の実践研究を行う。

授業計画

第１回　美術教育はなぜ必要か？美術教育の現場から
第２回　教材開発の専門性と実際―実際の教育現場で求められる教材開発
第３回　教材開発の専門性と実際―学習指導要領から見る教材開発
第４回　教材開発の専門性と実際―実例にふれる教材開発アートの現場から１実例紹介
第５回　教材開発の専門性と実際―実例にふれる教材開発アートの現場から２ワークショップ
第６回　教材開発をしてみよう１(ICT サポート：遠隔でアイディアをまとめる方法論)
第７回　教材開発をしてみよう ２（教育効果に合わせた教材開発）
第８回　教材開発内容の発表とフィードバックーまとめ
第９回　開発教材による授業設計をする１（具体的な授業運営を考える）
第１０回　開発教材による授業設計をする２（必要な素材や教室づくり）
第１１回　開発教材による模擬授業準備（授業運用をサポートするＩＣＴの活用）
第１２回　模擬授業発表１（香川大学学生発表）
第１３回　模擬授業発表２（鳴門教育大学発表）
第１４回　模擬授業発表３（徳島大学発表）
第１５回　模擬授業発表と振り返り

テキスト

文部科学省中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説美術編
文部科学省高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説美術編

参考書・参考資料等

福田 隆眞，茂木 一司，福本 謹一「美術科教育の基礎知識」建帛社
山崎 正明「中学校 美術の授業がもっとうまくなる 50 の技」明治図書出版
新関伸也　他「ルーブリックで変わる美術鑑賞」三元社
神林 恒道,ふじえ みつる「美術教育ハンドブック」三元社

学生に対する評価

　授業毎小レポート（20%）、指導案作成課題（40%），最終レポート（40%）

授業科目名：日本国憲法	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：柴田　尭史 担当形態：単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に 定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	日本国憲法

授業のテーマ及び到達目標

学生が以下の2点を理解し、説明できるようになることが到達目標です。

1. 人権とは何か、また日本国憲法はどのような人権を規定しているのか

2. 日本の統治の原理と仕組み

授業の概要

授業の前半では、最高裁判所の判例を中心に、「憲法上の人権が、具体的にどのように理解され、どのような内容なのか」を検討していきます。

授業の後半では、憲法で規定されている統治の仕組みを学んでいきます。

第1回　オリエンテーション、人権の意味(04)

第2回　法の下の平等(06，07)

第3回　表現の自由(1)――名誉毀損、わいせつ表現、集会の自由(10，11，12)　中間試験①

第4回　表現の自由(2)――メディア法入門(13，14，15)

第5回　信教の自由(09)

第6回　学問の自由と教育を受ける権利(16，19)　中間試験②

第7回　職業の自由と生存権(17，18)

第8回　幸福追求権(21，22)

第9回　勤労者の権利(20)、中間試験③

第10回 国民主権と選挙(23，08)

第11回　国会＝立法権、内閣＝行政権(24，25)

第12回　裁判所＝司法権、司法審査(26，27)　中間試験④

第13回　地方自治、天皇、平和主義・国際貢献(28-31)

第14回　「日本国憲法の制定」と「憲法改正」(02，32)

第15回　「憲法」とは(01，03)、期末試験，総括授業（試験のフィードバック）

カッコ内は教科書の該当箇所

テキスト

日本国憲法を考える

参考書・参考資料等

事例から学ぶ日本国憲法　憲法判例集　憲法入門

教科書をもとに授業を進めますので、教科書は必ず購入してください。
学生に対する評価 毎回の授業の振り返り：30点(3点×10回、中間試験・期末試験を実施する回は実施せず) 中間試験：40点(10点×4回) 期末試験：30点 試験範囲： 中間試験①：第1回 - 第3回 中間試験②：第4回 - 第6回 中間試験③：第7回 - 第9回 中間試験④：第10回 - 第12回 期末試験：全ての授業回 manabaのテスト機能を利用します。

授業科目名：憲法Ⅰ	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：柴田　尭史 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める科目区分	・日本国憲法		

授業の到達目標及びテーマ

この授業で、はまず法律学の基礎的知識の習得を目指す「法学概論」を２回にわたって行なった上で,「憲法」の学習に進みます。

「政治的な法」と言われる「憲法」の目的（存在理由）は,「人権」保障と，それを実現するための権力分立を制度化することにあります。本講義の目標は,「政治的な法」の「法」の側面から、「憲法総論」「人権総論」「人権各論」「統治機構論」の学習をとおして，憲法を理解することにあります。

授業の概要

本講義では，最初にすべての法律学の基礎にあたる内容として，「法の意義と機能」「法の形式と法の解釈」「法と法学の歴史」および「法学の特質」を学びます。

続いて「憲法」の学習に入り，最初に「憲法総論」として，「日本国憲法の成立過程」「日本国憲法の意義と憲法改正」「平和主義」を学びます。次いで，「人権総論および各論」に入り，とくに「人権各論」では自由権（身体的自由、信教の自由、経済的自由）、および社会権を学びます。

最後に、統治機構論を学びます。本講義では、人権保障と密接に関連する司法の制度について学びます。

授業計画

第１回　ガイダンス，法学概論（１）意義・機能と解釈
第２回　法学概論（２）歴史と特質
第３回　日本国憲法の成立
第４回　憲法の意義と憲法改正
第５回　平和主義（１）中間試験①
第６回　平和主義（２）
第７回　人権総論（１）
第８回　人権総論（２）
第９回　身体的自由
第１０回　信教の自由　中間試験②
第１１回　経済的自由、社会権
第１２回　統治機構総論
第１３回　立憲主義の制度　司法権の意義と限界
第１４回　立憲主義の制度　違憲審査制
第１５回　期末試験，総括授業

テキスト

新井誠 他著『総論・統治』日本評論社，2021年

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

毎回の授業の振り返り：3点×12＝36点，中間試験(2回)：40点，期末試験：24点

授業科目名：憲法Ⅱ	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：柴田　尭史 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める科目区分	・日本国憲法		

授業の到達目標及びテーマ

「政治的な法」と言われる憲法の存在理由は、国民の「人権」の保障と、そのための権力分立とにあります。日本国憲法の存在理由もそこにあります。

本論では，「政治的な法」の「政治」の側面から「人権各論」と「統治機構」について学びます。人権では，政治的権利である表現の自由と参政権を学びます。次に、「統治機構」の内、国会・内閣・地方自治について学びます。それらは，「人権」に比べると馴染みにくいと言われますが，人権保障を確実にするには，「統治」の機構にいかに実効力を持たせることができるかにかかっています。本講義では，人権保障のため権力分立の制度化という視点から「統治機構」論について習得することを到達目標とします。

授業の概要

最初に，表現の自由と参政権を学びます。次に，統治機構論として，地方自治，国民主権，象徴天皇，国民代表，議会制民主主義を順に学習します。

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：表現の自由①
第３回：表現の自由②
第４回：表現の自由③
第５回：参政権と選挙制度①　中間試験①
第６回：参政権と選挙制度②
第７回：統治の原理
第８回：政党
第９回：地方自治
第１０回：国民主権と象徴天皇　中間試験②
第１１回：国民代表(1)
第１２回：国民代表(2)
第１３回：議会制民主主義(1)
第１４回：議会制民主主義(2)
第１５回：期末試験，総括授業

テキスト

新井誠 他著『人権』日本評論社，2021年

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

毎回の授業の振り返り：3点×12回＝36点，中間試験(2回)：40点，期末試験：24点

授業科目名：ウェルネス総合演習	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：佐藤　充宏
			担当形態：単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に 定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	体育

授業のテーマ及び到達目標

１．健康生活と運動との関係について理解する．　２．グループワークを通じて健康運動，スポーツ及びアクティビティの技法と意義を理解する．

授業の概要

持続可能な健康生活を構築する素養を身につけるため，グループワークを中心に学習を進める．健康運動の意義や効果など の理解を深め，大学生活における自らの健康行動をふりかえる．また，グループを通じて体を使ったコミュニケーションであるア クティビティや，スポーツ，健康トレーニングについて実習し，健康生活における身体知を身につける．

授業計画

第1回：ウェルネス概論（講義室）
第2回：「バレーボール」個人技能
第3回：「バレーボール」集団技能
第4回：「バレーボール」ゲーム
第5回：「卓球・バドミントン・バスケ」選択
第6回：「卓球・バドミントン・バスケ」選択
第7回：「硬式テニス」個人技能
第8回：「硬式テニス」シングルゲーム
第9回：「硬式テニス」ダブルスゲーム
第10回：「サッカー・テニス・ソフト」選択
第11回：「サッカー・テニス・ソフト」選択
第12回：演習：社会人に向けた食事習慣づくり
第13回：演習：社会人に向けた食事習慣づくり
第14回：演習：社会人に向けた食事習慣づくり
第15回：ヘルスリテラシー

テキスト

使用しない．必要に応じて資料を配布する．

参考書・参考資料等

教科書・参考書に関する補足情報 必要に応じて資料を配布する

学生に対する評価 実践内容（50%），技能（10%），学習評価（30%），レポート（10%）を総合的に評価する．

授業科目名：基盤英語	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：１単位	担当教員名：山田　仁子
			担当形態：単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に 定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

英語の音声と文字による情報を理解し，運用する力を身につけ，かつ自ら世界の問題について深く考えて意見を発することができるようになることを目指す.

授業の概要

AFPのニュース映像を利用して，世界について，社会について考える．英語を使って広く情報を収集し，かつ自らの意見を発する力を身につけることを目指す．教材に含まれるニュースだけでなく，適宜，関連する最新のニュースも扱う．受講生からのニュース提供も受けて情報を共有する.

英語の語彙・文法の知識を増やし，英語の音声を聞き取り発音練習をして英語の基礎力を高めながら，この力を活用できるようにする.

主に「遠隔授業」により学習を進めるが，zoomを利用して対面授業に近い形を目指す．また重要事項の確認や課題の提出，テストなどは，徳島大学のLMSであるmanabaを利用して行う．各自オンライン教材にアクセスして英語力を身につける課題も重要な要素となる.

予習復習と授業を含めた学習の流れは，以下の通り：

1. オンライン教材のStreamLineを利用して予習し，manabaの「小テスト」にある課題を授業時間の前日17時までにmanabaで提出する.
2. zoomによる授業に参加する.
3. 授業時間の前後にオンライン教材のリンガポルタの学習を進める.

授業計画

第１回：授業の概要と英語学習について

第２回：Natural vs Artificial: For AI voice assistance

第３回：Relocating vs Protecting Buildings: How to preserve historical sites

第４回：Disease Prevention vs Economic Growth: Which comes first?

第５回：Extracurricular Activity vs Studying Hard: Discipline for preventing crimes

第６回：Traditional Living vs Urbanization: Is noise pollution?

第７回：Fair Trade vs Free Trade: What is best for farmers?

第８回：学期前半に学習した重要表現のまとめ，および中間試験

第９回：Environmental Activism vs International Agreements: Which is better?

第１０回：Alternative vs Fossil Energy: Power for the future 第１１回：Vegetarians vs Meat Eaters: Fighting dietary habits for the environment 第１２回：Endangered Species vs Diplomacy: Animal rights 第１３回：Old vs New Industries: Solving unemployment 第１４回：Needed vs Not Needed: Affirmative action 第１５回：学習した重要表現についてのまとめ，および最終試験，総括授業
テキスト AFP World News Report 6 / AFPニュースで見る世界 6
参考書・参考資料等 Collins Cobuild Learner's Dictionary, Concise版
学生に対する評価 中間試験（25%）最終試験（25%）とオンライン学習（50%）を基に総合的に評価します.

授業科目名： 主題別英語	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 田久保　浩 担当形態： 単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に 定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

１．英語の文章、音声、動画の資料について、コンテクストとともに理解することができる。

２．自分の関心を持った事柄について、感想や考えを英語で述べられるようになる。

３．継続した会話により内容のある議論を深められる。

授業の概要

今、世界で問題となっている様々な話題について、自分の意見を述べることに焦点をあてながら、総合的な英語コミュニケーション活動を行う。発信することを意識してインプット活動、アウトプット活動を行うことで、能動的に英語スキルを身に付ける。

授業計画

第1回：Introduction— Orientation to the Course Work. Topic 1: Cashless society
第2回：Topic 1: Cashless Society--discussion
第3回：Topic 2: Fast Fashion
第4回：Fast Fashion: Discussion
第5回：Plastic Packaging
第6回：Plastic Packaging: Discussion
第7回：Social Media
第8回：Social Media: Discussion
第9回：Improving education
第10回：Improving education: Discussion
第11回：Equal Pay in Sports
第12回：Equal Pay in Sports: Discussion
第13回：Gaming Addiction
第14回：Gaming Addiction: discussion
第15回：Final Test，Summary and Review

テキスト

Global Issues: An Introduction to Discussion Skills

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価 期末テスト（50%），小テスト、宿題・授業中課題（50%）

授業科目名：発信型英語	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： １単位	担当教員名： モートン　常慈 担当形態： 単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に 定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		

授業のテーマ及び到達目標

このコースの終了時には、さまざまなディベートのテーマについて、口頭や文章で効果的かつ明確に自分の意見を述べることができるようになります。また、各ユニットのディベート問題のメリットとデメリットを議論することで、批判的思考力を養います。また、ニュースなどで議論されている様々なトピックについても意識するようになります。

授業の概要

毎週異なるディベートのトピックが提示され、そのトピックに対して「どの程度賛成か」を生徒同士やクラスで話し合います。各ユニットは、プレビューディクテーション、How much do you agree question、ウォームアップディスカッション、ボキャブラリー、リスニング、リーディング、読解問題、ダイアログ、メインディスカッション、スピーキングで構成されています。また、ディスカッションをする際に便利な表現もたくさん学ぶことができます。

授業の計画

第1回： Course Introduction /

Unit 3 Club activities should be banned at schools.　(PDF provided)

部活を禁止すべきである

* It is expected that students buy the book soon after the first class to prepare to use from Week 2.

第2回： Unit 1 We should keep early hours.

早寝早起きをすべきである

第3回：Unit 2 College students should live alone.

大学生は一人暮らしをすべきである

第4回：Unit 4 Study abroad experience should be a requirement for university graduation.海外留学を大学の卒業要件にすべきである

第5回：Unit 5 College students should study foreign languages more seriously in addition to English.

大学生は第二外国語をもっと真剣に学ぶべきである

第6回：Unit 6 College students should choose an occupation that suits them.

大学生は自分の適性に合った職業に就くべきである

第7回：Unit 7 We should consider important rules and manners for online communication.オンライン上のルールとマナーを守るべきである
第8回：Unit 8 More Japanese companies should use English as their main language of business. もっと多くの企業が英語を社内公用語にすべきである
第9回：Unit 9 School and company uniforms should be abolished.
学校や企業の制服を廃止すべきである
第10回：Unit 10 We should promote private lodging more.
民泊をもっと促進すべきである
第11回：Unit 11 We should limit the number of tourists from abroad.
外国人観光客の数を制限すべきである
第12回：Unit 12 Tobacco should become an illegal drug.
タバコを不法薬物に指定すべきである
第13回：Unit 13 We should not let elementary school kids use a smartphone.
小学生にスマホを持たせるべきではない
第14回：Unit 14 We should allow pets at apartments and condos.
アパート・マンションでペットを飼うのを認めるべきである
第15回：Unit 15 Married Japanese women should be allowed to keep their family name.
夫婦別姓を認めるべきである

* 毎週の宿題は、通常、以下の一部または全部で構成されています。各ユニットのステップ0、 3、5、6、7、10。詳細は授業で説明します。宿題はMANABAで完結してください。

*5週目から14週目までの間に、プレゼンテーション（対面またはオンライン）を行います。
1. ユニット問題のメリット・デメリットについて1つ
2. オプションステップPart3-エクストラクエスチョンにある問題のうち1つについて1つ。

テキスト
どのくらい賛成しますか？How much do you agree? Evolving Opinions

参考書・参考資料等
Japanese- English dictionary

学生に対する評価
授業態度・参加 20%
毎週の宿題（文章題など） 45%
プレゼンテーション(2) 25%
プレゼンテーション・リスニング・レポート (2) 10%

授業科目名： ドイツ語入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 今井　晋哉 担当形態： 単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に 定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

◇ 名前や年齢，家族などの身近で具体的なことに関して，よく使われる表現や質問を理解できる。

◇ ポスターなどの短い語句や，簡単な書式などを理解できる。名前や国籍，住所などの個人情報を書いたり，葉書などに短い挨拶を書くことができる。

◇ 相手がゆっくり，はっきりと話して，助け船を出してくれれば，自己紹介などの簡単な会話をすることができる。

授業の概要

この授業では，日常生活上の具体的な場面に即したドイツ語の会話表現を理解するとともに，学習したことを用いてドイツ語によって表現する演習を行いたい。具体的には，パートナーとの練習をも交えた基本文型の学習，関連基本語彙や初級文法の基礎の学習，教科書付属の音声教材を用いた聞き取り練習，口頭によるドイツ語の表現練習などを，授業時に，また家庭学習としてやってもらい，毎回できるだけ多くの受講者にその成果を発表してもらおうと考えている。また各種のヴィデオなどを用いながら，現代ドイツ事情についても，少々紹介したい。

ただし今年度もオンライン授業（オンデマンド方式）を中心にせざるを得ない場合には，以上のうち教室での練習はできないことになる。その場合は家庭学習での自主的努力がより求められる。

1. 以下は，各回でとりあげる内容・関連文法項目などを示している。なお以下の計画は暫定的なものであって，実際の授業の進行によっては変更もあり得る。詳しいことは授業時に説明する。

第 1 回：ガイダンス～教科書・授業の進め方・家庭学習などについての説明

第 2 回：アルファベート，辞書の紹介

第 3-4 回：発音とつづり字の読み方

第 5-6 回：ドイツ語のあいさつ，数字など

第 7-9 回：動詞の現在人称変化，sein と haben の変化，動詞の位置

第 10 回：首都ベルリンと大学の紹介，中間小テスト

第 11-13 回: 名詞の性・格変化（１格と４格） 第 14 回: ドイツのパンとパン屋 第 15 回: 期末試験, 総括授業
テキスト ドイツ語の時間 Web改定版
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 平常点（＝授業中の発表や教員とのやりとりに対する評価, 10点程度）・中間小テスト（６月, 25点満点）・期末試験（７月, 65点程度）による。 オンライン授業が中心となる場合は毎回小テストを出題してウェブページを通して解答・送信してもらう。それを平常点＋中間小テストに代える。

授業科目名： ドイツ語初級Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： シートゲス オラフ 担当形態： 単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に 定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		

授業のテーマ及び到達目標

◇ 趣味や学校、仕事など学生にとって身近な話題について、よく使われる表現や質問を理解できる。

◇ 短い文章を理解したり、身近で簡単な資料から必要な情報を取り出すことができる。簡潔なメモやメッセージを書くことができる。

◇ 買い物や趣味の活動など日常的な場面で、価格や時間などの情報のやり取りが必要となったときに、授業で扱ったパターンの会話であれば対応できる。

授業の概要

前期に引き続き本講座ではドイツ語文法や語彙だけではなく、ドイツ語圏の文化や人々の考え、習慣への理解を深め、そのために必要なコミュニケーション能力を身につける。

第1回：授業の進み方、夏休みについて、現在完了形
第2回：職業について、句動詞、分離動詞、日分離動詞
第3回：履歴書を読む、名詞の語尾
第4回：映画について、受動詞、話法の助動詞
第5回：ドイツの雑誌について
第6回：話法の助動詞の過去形
第7回：住まいについて、比較する：街と田舎
第8回：ドイツのテレビについて
第9回：手紙の書き方について
第10回：形容詞、反対語、
第11回：接続詞、命令形
第12回：環境問題について
第13回：前置詞：3格と4格
第14回：前置詞：3格と4格
第15回：まとめ

テキスト

Ach so! Neu

プリントを配布する。

参考書・参考資料等 プリントを配布する。
学生に対する評価 学期末試験(50%)、小テスト（3）、宿題、授業への取り組み状況(50%)により総合的に評価する。

授業科目名：ドイツ語 初級Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 依岡　隆児
			担当形態： 単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に 定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

１　初級ドイツ語を使って，簡単な文書を読め，旅行に行って困らない程度のコミュニケーション能力を養う

２　ドイツ語圏の文化についての理解を深める

３　簡単なドイツ語を実際に運用できる技能を身につける。

４　外国語の基本的運用能力と国際感覚の醸成する.

授業の概要

初級ドイツ語の教科書を使用し, 基本的な文法事項を復習しながら, ドリル形式で練習し, 自然とドイツ語が身につくようにする．また, ドイツ語圏の社会や文化に興味を喚起し, 国際人としての教養が身につくようにする.

＊新型コロナウィルス感染拡大を防ぐため、オンライン等で授業を行うことがありますので、教務システムの「メッセージ」を必ず事前に確認してください。

第1回：授業ガイダンス, 前期の復習

第2回：7課，兵役 話法の助動詞，未来の助動詞

第3回：同上, ドリル

第4回：8課，外国人 形容詞，　比較変化

第5回：同上, ドリル, ビデオ「環境先進国ドイツ」

第6回：9課，病院 再帰代名詞・動詞など

第7回：同上, ドリル

第8回：10課，クリスマス 動詞の三基本形，過去人称変化

第9回：同上，ドリル

第10回：中間テスト

第11回：11課，葬式，現在完了，受動態

第12回：同上，ドリル

第13回：12課，カーニバル, 関係代名詞など

第14回：復習

第15回：期末試験，総括授業＊教科書の練習問題やテキストは必ず事前にやっておいてください。

＊今年度は，遠隔授業（Teamsによるリモートライブ授業）で行うことがあります。
テキスト 『ドイツ 暮らしのスケッチ』 前期に使用した教科書および辞書を持参のこと その他，教材のプリントを配布します.
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業出席と問題に対する回答・発表と授業への取り組み、1，2回課す宿題の提出、期末試験にもとづいて総合的に評価します．おおむね、態度、授業での発表など50％、期末試験40％、宿題10％

授業科目名： フランス語入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 田中　佳 担当形態： 単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に 定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		

授業のテーマ及び到達目標

1. 自己紹介・買物・注文などに必要な基礎的会話ができる.
2. 現在や過去に関する平易な文章が読解できる.

授業の概要

学習内容は，文法，読解，作文，会話のすべてにわたります．また，ことばだけでなく，ことばを話す人たちについても知ってもらうため，フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます.

基本的に、教科書に沿って進めていきます。
人数や受講生の状況に応じて進度が変更になることもあります。

第1回：Leçon 0 挨拶の表現、アルファベ、綴りの読み方,
第2回：Leçon 1 名詞の性、数、主語代名詞
第3回：Leçon 1 冠詞、縮約
第4回：Leçon 2 動詞êtreとavoir
第5回：Leçon 2 形容詞
第6回：Leçon 3 第一群規則動詞
第7回：Leçon 3 指示形容詞、人称代名詞強勢形
第8回：Leçon 4 第一群規則動詞
第9回：Leçon 4 否定文、中性代名詞
第10回：Leçon 5 動詞faire, prendre, partir
第11回：Leçon 5 疑問文、非人称構文
第12回：Leçon 6 動詞aller venir vouloir
第13回：Leçon 6 疑問形容詞
第14回：復習 所有形容詞、前置詞
第15回：学期末試験，総括

テキスト

Partir pour Paris

参考書・参考資料等

授業の中で適宜紹介する．初学者向けの辞書には，『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)，『現代フランス語辞典(ル・ディコ)』(白水社)，『クラウン仏和辞典』(三省堂)などがある．
学生に対する評価 平常点（教室での発言，課題，小テストなど）と期末試験の結果を総合的に評価する．

授業科目名： フランス語初級Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 田中　佳 担当形態： 単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に 定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

1. 自己紹介・買物・注文などに必要な基礎的会話ができる.

2. 現在や過去に関する平易な文章が読解できる.

授業の概要

学習内容は，文法，読解，作文，会話のすべてにわたります．また，ことばだけでなく，ことばを話す人たちについても知ってもらうため，フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます.

基本的に、教科書に沿って進めていきます。

人数や受講生の状況に応じて進度が変更になることもあります。

第1回：Leçon8 前期の復習

第2回：Leçon9 代名動詞

第3回：Leçon10 直説法単純未来

第4回：Leçon10 指示代名詞

第5回：Leçon11 代名動詞の複合過去

第6回：Leçon12 直説法半過去、時制の一致

第7回：Leçon12 直説法大過去

第8回：Leçon13 強調構文、疑問形容詞

第9回：Leçon14 条件法現在、時制の一致

第10回：Leçon14 条件法の表現

第11回：Leçon15 ジェロンディフ

第12回：Leçon16 接続法現在

第13回：Leçon16 接続法の用法

第14回：Appendice 直説法前未来、間接話法

第15回：復習，総括

テキスト

ヴァズィ！：初級フランス語 ： 会話・文法そして文化（改訂版）

参考書・参考資料等

授業の中で適宜紹介する．初学者向けの辞書には，『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)，『現代フランス語辞典(ル・ディコ)』(白水社)，『クラウン仏和辞典』(三省堂)などがある
学生に対する評価 平常点（教室での発言，課題，小テストなど）と期末試験の結果を総合的に評価する．

授業科目名： フランス語初級Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 田中　佳 担当形態： 単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に 定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		

授業のテーマ及び到達目標

1. 自己紹介・買物・注文などに必要な基礎的会話ができる.

2. 現在や過去に関する平易な文章が読解できる.

授業の概要

学習内容は，文法，読解，作文，会話のすべてにわたります．また，ことばだけでなく，ことばを話す人たちについても知ってもらうため，フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます.

基本的に、教科書に沿って進めていきます。

人数や受講生の状況に応じて進度が変更になることもあります。

第1回：Leçon9 復習、代名動詞

第2回：Leçon9 代名動詞

第3回：Leçon10 比較級、最上級

第4回：Leçon11 直説法複合過去、過去分詞の一致

第5回：Leçon11 中性代名詞

第6回：Leçon12 半過去と複合過去

第7回：Leçon13 関係代名詞

第8回：Leçon13 時の表現

第9回：Leçon14 条件法過去

第10回：Leçon15 現在分詞

第11回：Leçon15 受動態、過去分詞の一致

第12回：Leçon16 接続法過去

第13回：Appendice 法と時制

第14回：Lecture

第15回：学期末試験，総括

テキスト

ヴァズィ！：初級フランス語 ： 会話・文法そして文化（改訂版）

参考書・参考資料等

授業の中で適宜紹介する．初学者向けの辞書には，『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)，『現代フランス語辞典(ル・ディコ)』(白水社)，『クラウン仏和辞典』(三省堂)などがある．
学生に対する評価 平常点（教室での発言，課題，小テストなど）と期末試験の結果を総合的に評価する．

授業科目名： 中国語入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 新田　元規 担当形態： 単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に 定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

発音とその表記法（ピンイン）に慣れ、文法・語法の基礎を身につけることを目標とする。

授業の概要

教科書に沿って、発音（音声・声調）と基本的な文法・語彙を総合的に学習する。入門段階であるので、発音の習得を重視して、繰り返し発声練習を行う。

授業計画

第1回：発音①　声調・母音
第2回：発音②　子音（１）・複母音
第3回：発音③　子音（２）・鼻母音・声調変化
第4回：第１課　人称代名詞、“是”の動詞文
第5回：第２課　指示代名詞、動詞述語文
第6回：第３課　形容詞述語文、助動詞“想”“要”
第7回：第４課①　場所代名詞
第8回：第４課②　“有”“在”の表現
第9回：第５課①　数詞、量詞
第10回：10回：第５課②　完了の“了”
第11回：第６課①　時の表現、変化の“了”
第12回：第６課②　連動文
第13回：第７課①　時刻の表現、動量補語
第14回：第７課②　前置詞“在”
第15回：学期末試験，試験答案返却・講評

テキスト

チャレンジ!一年生の中国語

参考書・参考資料等

Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〔新訂版〕
キクタン中国語【初級編】中検４級レベル

学生に対する評価

平常点３割（毎回の確認テスト、課題）、学期末試験７割で評価する。

授業科目名： 中国語初級Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 施　国恩 担当形態： 単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に 定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		

授業のテーマ及び到達目標
正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします

授業の概要
前期の中国語入門で学んだ正しい発音や基本的な文法を生かして，中国語会話の中によく使われる表現や文法をまとめています。尚，授業中の練習によって，系統的に中国語のコミュニケーションの「聞き方」や「話し方」を習得できるように授業を進めていきます。

授業計画
第1回：第７課　改天咱们一起去吃
第2回：第７課　ポイント１～ポイント４と48ページのdrill
第3回：第８課　坐电车去吧
第4回：第８課　ポイント１～ポイント４と５２ページのdrill
第5回：第９課　您是在哪儿买的？
第6回：第９課　ポイント１～ポイント４と５６ページのdrill
第7回：第10課　会说一点儿
第8回：中間テストと第10課 ポイント１～ポイント４と６０ページのdrill
第9回：第11課　多少钱一双？
第10回：第11課 ポイント１～ポイント４と６４ページのdrill
第11回：第12課　你在干什么？
第12回：第12課　ポイント１～ポイント４と６８ページのdrill
第13回：第13課 拿过来，给我看看
第14回：第13課　ポイント１～ポイント４と７２ページのdrill
第15回：第14課 你的脚怎么了？

テキスト
中国語で伝えよう

参考書・参考資料等
特になし

学生に対する評価

中間テスト４０％、期末テスト４０％、授業態度と授業中の練習２０％より総合的に評価します。

授業科目名： 中国語初級Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 新田　元規 担当形態： 単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に 定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

発音・文法・語彙の基礎を習得し、簡単な会話（自己紹介など）ができるレベルに到達することを目標とする。

授業の概要

教科書に沿って、発音（音声・声調）と文法・語彙を総合的に学習する。

授業計画

第1回：前期の復習 第８課① お金の表現、動詞の連体修飾
第2回：第８課②　前置詞“跟”
第3回：第９課①　可能の助動詞、様態補語
第4回：第９課②　進行形
第5回：第10課①　方向補語
第6回：第10課②　時量補語
第7回：第11課①　比較
第8回：第11課②　経験
第9回：第12課①　結果補語
第10回：第12課②　受け身
第11回：第13課①　可能補語、使役
第12回：第13課②　処置文
第13回：第14課①　存現文
第14回：第14課②　強調構文
第15回：学期末試験，試験答案返却・講評

テキスト

チャレンジ！一年生の中国語

参考書・参考資料等

Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〔新訂版〕
キクタン中国語【初級編】中検４級レベル

学生に対する評価

平常点３割（毎回の確認テスト、課題）、学期末試験７割で評価する。

授業科目名： 情報科学入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 掛井秀一，佐原理，河原崎貴光 担当形態： クラス分け・単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に 定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		

授業のテーマ及び到達目標

現代社会において必須のAIまたデータサイエンスに関わる基礎知識と応用技術、ならびにICTの利用スキルを習得する。

授業の概要

Ｅラーニングコンテンツを活用しデータサイエンスならびに情報処理に関する知識，スキルを身につける．前半ではデータサイエンスを理解するための基礎知識とその関連技術を学修する．後半では、AI について展望し、AI を積極的に活用するための基礎知識を身につける。

また情報機器を利用した実習により、アプリケーションソフトの活用スキルを習得する。

第1回：ガイダンス
第2回：社会におけるデータ・AI活用
第3回：データの法規と倫理
第4回：データの要約
第5回：データの関係性
第6回：データの可視化
第7回：アルゴリズム・プログラミング基礎
第8回：ビッグデータとデータエンジニアリング
第9回：AIの歴史と応用分野
第10回：機械学習・深層学習の基礎と展望
第11回：AIの構築と活用
第12回：文章作成1 レポートの作成
第13回：文章作成2 図表の挿入
第14回：表計算 データの入力，グラフ作成
第15回：プレゼンテーション プレゼンテーションの作成(教職対応），オブジェクトの挿入

テキスト

情報科学入門～統計・データサイエンス・プログラミング

参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 確認テスト：40%，実習課題：60％

授業科目名： 介護等体験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 坂田大輔 担当形態：単独
科　目	大学が独自に設定する科目（中学校　美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			

授業のテーマ及び到達目標

社会福祉施設での実習を通して，利用者の現状や，利用者のことを考えた環境づくりや支援について理解する。

特別支援学校での実習を通して，知的発達の遅れがある児童生徒とかかわったり，行事運営に参加したりしながら，児童生徒の現状や，個に応じた支援のあり方について理解する。

授業の概要

徳島県内の社会福祉施設に５日間、鳴門教育大学附属特別学校に２日間，合計７ 日間の実習を行う。社会福祉施設実習は，県内の老人福祉施設，児童福祉施設，障害者施設と連携し，各社会福祉施設の計画に基づいて行う。附属特別学校実習は，鳴門教育大学附属特別支援学校と連携し，同学校の計画に基づいて，配属学級において知的発達の遅れがある児童生徒とのかかわったり，学校行事「学校祭」の前日準備，当日運営にかかわったりしながら行う。このような実習を通して，上記の目標の達成をめざすが，使命感や責任感，教育的愛情，コミュニケーション力をもつことの大切さを再確認し，今後さらに教員に求められている資質能力を修得していこうとする気持ちを高めてほしい。

授業計画

第１回：社会福祉施設における介護等体験について～社会福祉施設の現状と介護・支援～
第２回：社会福祉施設実習
第３回：社会福祉施設実習
第４回：社会福祉施設実習
第５回：社会福祉施設実習
第６回：社会福祉施設実習
第７回：社会福祉施設実習
第８回：社会福祉施設実習
第９回：社会福祉施設実習
第１０回：社会福祉施設実習
第１１回：社会福祉施設実習
（第２回～第１１回：各社会福祉施設の計画による。）
第１２回：特別支援学校における介護等体験について～特別支援教育・学校祭について～
第１３回：特別支援学校実習
第１４回：特別支援学校実習
第１５回：特別支援学校実習
（第１３回～第１５回：鳴門教育大学附属特別支援学校の計画による。）

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

『介護等体験実習ノート』の活動日誌への記述及び指導担当者の評価，「介護等体験」受講報告書の記述を総合的に判断して評価する。

授業科目名： 地域ワークショップデザイン	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉川 暢子、古草 敦史、 尹　智博、佐原　理、 栗原　慶、小川　勝、 内藤　隆、山田　芳明 担当形態： 複数

科　目	大学が独自に設定する科目（中学校及び高等学校　美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	

授業の到達目標及びテーマ

本授業では Arts-Based-Research（ABR=美術による探求）を用いて地域に遍在する価値を発見し、子どもの視点を生かしながら地域の価値を共創していくデザイン手法を学び、美術教育が地域とどのように貢献可能なのか実践知を獲得することを目的とする。

授業の概要

我が国の美術教育の中心的価値である創造性や感性に根ざした教育をどのような観点から深められるのか、本授業では教育現場フィールドに出向き実際の地域に遍在する教育資源を活用する方法論について学ぶ。そこで、ABR によって地域の場所性や可能性を子どもの目線から探求し、芸術による気づきを基に、デザイン思考などの発想の方法論を援用しながら、地域デザインの手法を探求する。本実践を通じて、学校が四国各地の地域拠点として美術教育を通してどのようにそれぞれの地域と共存し創造的に持続可能な発展が可能なのか具体的な知見を得る。

授業計画

第１回：イントロダクション：「地域ワークショップデザイン」とは？
第２回：学びのフィールドについて知ろう１　ABR の方法論
第３回：学びのフィールドについて知ろう２　歩いてまわる(FW)
第４回：学びのフィールドについて知ろう３　地域資源の探究(FW)
第５回：学びのフィールドについて知ろう４　地域資源の発見方法(FW)
第６回：地域を創造的に捉えるフィードバック１　各教員からのテーマ
第７回：地域を創造的に捉えるフィードバック２　美術教育の視点から考える
第８回：地域を創造的に捉えるフィードバック３　子どもの発想を整理する
第９回：地域を創造的に捉えるフィードバック４　デザイン思考による落とし込み
第１０回：美術教育によって地域をデザインする１　子どもの視点を整理する
第１１回：美術教育によって地域をデザインする２　ワークショップを設計する
第１２回：美術教育によって地域をデザインする３　プロトタイピング
第１３回：美術教育によって地域をデザインする４　実践してみる
第１４回：美術教育によって地域をデザインする５　フィードバックを得る
第１５回：まとめ

テキスト

なし

参考書・参考資料等

小松佳代子『美術教育の可能性』勁草書房，2018
笠原広一，リタ・L・アーウィン『アートグラフィー —芸術家/研究者/教育者として生きる探求の技法—』BookWay,2020

学生に対する評価
　出席態度及び発言貢献度（30%），学習成果物（30%），レポート（40%）

授業科目名： 教育学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 弘田　陽介 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		

授業のテーマ及び到達目標

教育を成り立たせる要素・それらの相互関係・理念・歴史を把握することをテーマとする。そのような知見を単なる知識にとどめずに，思想的な訓練を深めた現在の教育言説や制度改革にまで連なる一つの思想の流れの中で解釈できることを到達目標とする。また小発表を通して，文献や資料に沿って，自らの解釈を提示するというスキルを身につけることも到達目標としたい。

授業の概要

教育の理念および思想史を，現在の私たちの教育問題と接続して考えていく。そのために，まず人間の成長や家庭・社会と教育の結びつきを、近代教育思想・制度の成立といった事象を，連関させて把握する。授業は，主に講義・テクスト読解・映像分析をメインとするが，受講者の小発表を織り交ぜることで，活発に自由な議論が展開できるように工夫する。

授業計画

第１回：導入 授業の概略と進め方について

第２回：現代社会における教育課題の概略

第３回：人間の成長 誕生から幼児期まで

第４回：人間の成長 少年期から思春期まで

第５回：人間の成長 青年期から生涯教育の思想

第６回：家庭と社会の教育学

第７回：教育制度の成立史の概略

第８回：教育を形作った思想 ルソーとペスタロッチ

第９回：教育を形作った思想 カント

第１０回：学問としての近代教育 ヘルバルト

第１１回：教育を形作った思想 フーコー

第１２回：教育の理念における経験の思想　デューイ

第１３回：教育の理念における身体の思想 古典・芸道の理念

第１４回：レポートの構成・書き方

第１５回：レポート発表・まとめ・定期試験

テキスト

プリントを適宜用意する
参考書・参考資料等 弘田陽介『近代の擬態/擬態の近代』（東京大学出版会・2007）
学生に対する評価 授業での積極的な発言（20%），小発表（30%），学期末のレポート（50%）

授業科目名： 教師論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 中上　斉 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

「子どもに慕われ，保護者に敬愛され，同僚に愛され，校長に信じられる」教師を育成し，新たな時代にふさわしい教師として学校教育が担えるよう，確固たる教師観と実践につながる資質・能力を育成する。そのために，次の到達目標を設定する。①学校現場の実情を理解することができる。②教職の意義，教員の職務内容等を学ぶことができる。③理想とする教師像を描くことができる。

授業の概要

学校現場の実態や課題，問題点を新聞や参考資料を基に把握した上で，教職の意義を理解し，教職のあるべき姿を自らが描いていく。教育現場を参観したり，先輩教師の話を聞いたりすることにより，実感をともなった授業構成にしていく。

授業計画

第１回：学校現場の実情と課題〈教育観の変遷と今日の教員の役割〉
第２回：教職の意義と使命〈教員の存在意義〉
第３回：教員の服務と職務内容〈公教育の目的〉〈教員研修〉
第４回：学校現場の参観〈進路選択〉
第５回：学校現場に関する講話〈教員の職務の全体像〉
第６回：小学校教員から学ぶ〈児童への指導〉
第７回：中学校教員から学ぶ〈生徒への指導〉
第８回：高等学校教員から学ぶ〈指導以外の校務を含めた全体像〉
第９回：子どもの心をとらえた教育実践から学ぶ（中学校教員）〈専門職としての指導〉
第１０回：子どもの心をとらえた教育実践から学ぶ（高等学校教員）〈専門職としての指導〉
第１１回：子どもの心をとらえた教育実践から学ぶ（特別支援学校教員）〈専門職としての指導〉
第１２回：「日本で一番大切にしたい会社」から学ぶ教師の在り方〈教職の職業的特徴〉〈チーム学校〉
第１３回：自分の理想とする教師像〈今日の教員に求められる資質・能力〉
第１４回：教職への展望〈学び続ける教員〉
第１５回：レポート〈適切な職務の遂行〉

テキスト

必要に応じて授業時にレジュメ・資料を配付する。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（最新版）
高等学校学習指導要領（最新版）
適宜，参考図書資料を紹介する。

授業科目名： 教育の制度と経営	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 石村　雅雄 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

１．教育法規と教育行政の基本について理解する。

２．今日の教育政策の動向について理解する。

３．教育制度と学校経営について、批判的に考察する力を身につける。

授業の概要

本講義では、歴史的経緯を辿りながら、現在の学校教育に関わる主要な法制度について解説する。さらに、各回の講義に関連するテーマについて、自分の意見や考えを記述したり、グループワークをしたりすることを通じて、教育制度や学校経営について批判的に考察する力を身につけるとともに、学校という社会的組織の機能や役割、課題について検討する。

授業計画

第１回：公教育の原理と理念（日本国憲法・教育基本法）　―講義・自分の意見や考えの記述―

第２回：公教育の原理と理念（日本国憲法・教育基本法）　―グループワーク―

第３回：学校教育制度の成立と発展　―講義・自分の意見や考えの記述―

第４回：学校教育制度の成立と発展　―グループワーク―

第５回：教育行政の理念と仕組み　―講義・自分の意見や考えの記述―

第６回：教育行政の理念と仕組み　―グループワーク―

第７回：学校組織と学校経営　―講義・自分の意見や考えの記述―

第８回：学校組織と学校経営　―グループワーク―

第９回：学校運営参加制度・地域連携と学校経営　―講義・自分の意見や考えの記述―

第１０回：学校運営参加制度・地域連携と学校経営　―グループワーク―

第１１回：教育課程・生徒指導・安全管理と学校経営　―講義・自分の意見や考えの記述―

第１２回：教育課程・生徒指導・安全管理と学校経営　―グループワーク―

第１３回：学級制度と学級経営　―講義・自分の意見や考えの記述―

第１４回：学級制度と学級経営　―グループワーク―

第１５回：まとめ

定期試験

テキスト

資料を配布する

参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価 「自分の意見や考えの記述」「筆記試験」の２点を総合的に評価する。

授業科目名： 学習・言語心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 津村　秀樹
			担当形態： 単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び生徒に対する理解

授業のテーマ及び到達目標

1. 学生はヒトを含む動物の行動が変容する過程を理解する
2. 学生はヒトが言語を習得するメカニズムを理解する

授業の概要

ヒトを含む動物の行動が変容する過程、およびヒトが言語を習得するメカニズムを理解することを目的とする。この授業を通して、学生は学習心理学と言語心理学（とくに言語発達に関する領域）における基礎的概念、知見、代表的な研究を学び、行動変容や言語に関する諸現象を理論に基づいて理解したり、説明したりできるようになる。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：レスポンデント条件づけの基本原理
第３回：レスポンデント条件づけの諸現象
第４回：レスコーラ・ワグナー理論
第５回：レスポンデント条件づけの展開
第６回：オペラント条件づけの基本原理
第７回：強化スケジュール
第８回：逃避・回避と弱化
第９回：オペラント条件づけの展開
第１０回：高次の学習
第１１回：学校場面における応用
第１２回：概念形成
第１３回：言語行動
第１４回：言語発達
第１５回：まとめ
定期試験

テキスト

適宜，資料を配付する

参考書・参考資料等

無し
学生に対する評価 期末試験は持ち込みなしで、選択式と記述式で行う。おおむね期末試験70%、出席を含む平常点30%で評価する。

授業科目名： 発達心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 榎本　拓哉 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		

授業の到達目標及びテーマ

幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解する。

乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・感情発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解する。

授業の概要

講義方式で授業を実施する。講義の終わりに小レポートを作成し，次回講義時にそれを基に質疑応答を行いながら授業を進めていく。単元に応じて体験プログラムや小実習などのアクティブラーニングを用意する。

授業計画

第１回：発達とは何か。

第２回：発達段階について理解する：時間軸の中での人の変化

第３回：発達研究法について考える：横断的研究法と縦断的研究法の利点と欠点から発達を考える。

第４回：発達の要因について理解する：遺伝的要因・環境的要因・エピジェネティクスの関係を知る。

第５回：発達の一般的傾向を知る：乳幼児の姿から発達の一般的傾向を考える。

第６回：発達理論を理解する：Freud,S. Jung,C.G. Erikson,E.H.の発達理論から発達を理解する。

第７回：身体発達を理解する：乳幼児期から青年期を含むあらゆる発達期の特徴を知る。

第８回：運動発達を理解する：原始反射、粗大運動、微細運動の発達段階別特徴を知る。

第９回：言語発達を理解する：乳幼児期から青年期を含むあらゆる発達期の理解語/発語の特徴を知る。

第１０回：動機づけ・学習の発達を理解する：動機づけと学習の発達特徴を理解する。

第１１回：認知発達を理解する：Piajet,J.の認知発達理論等から認知発達の特徴を理解する。

第１２回：社会性の発達を理解する：社会性の発達に影響する共同注意、愛着行動について理解する。

第１３回：コミュニケーションの発達を理解する：自己と他者の関係のあり方の発達を理解する。

第１４回：社会集団について理解する：遊びや集団活動を通した関係性の発達を考える。

第１５回：非定型発達（発達障害を含む）について理解し、対応を考える。

定期試験を実施する
テキスト 　設定をしない。講義中に受講者へ資料を提供する予定である。
参考書・参考資料等 　秦野悦子・近藤清美（編著）2020公認心理師カリキュラム準拠 発達心理学 医師葉出版，3,000円＋税
学生に対する評価 　講義各回での小レポート（20%），講義への参加状況（30%），定期試験の成績（50%）を総合して行う。

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山越　明 担当形態： 単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		

授業のテーマ及び到達目標

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

授業の概要

「障害者の権利に関する条約」の批准に向けて、福祉分野、教育分野では障害のある人への様々な制度が見直され、障害のある人もない人もそれぞれの個性や特性を共に認め合う共生社会の実現に向けて進んでいる。インクルーシブ教育の理念が浸透し、障害のある幼児・児童生徒の地域の学校への就学が増加している。これからの教員は、通常の学級担任においても特別支援教育のノウハウが求められるようになる。本授業では、障害の起因、発達の過程、各障害種の支援方法等、教育現場で必要な基礎的な子どもの見取りや支援方法についての理解を深めると共に、特別な支援を要する児童生徒に係る今日的な課題や制度等の基礎的な知識を身につけることにより、通常の学級にも在籍している発達障害や学びにくさのある児童生徒への支援の基礎的な力を育む。

授業計画

第１回：人と動物の違い（二足歩行、脳の発達、手の発達、口唇の発達）

第２回：障害者について

（「生活機能分類（WHO）」、「障害者の権利に関する条約」に係る障害者施策）

第３回：障害児教育、就学に係る仕組みについて（教育支援資料）

第４回：知的障害、自閉症・情緒障害について

第５回：視覚、聴覚、肢体不自由、病弱虚弱について

第６回：発達障害について

第７回：高機能自閉症の児童生徒への指導について

第８回：ADHDの児童生徒への指導について

第９回：学習障害児への指導について

第１０回：特別な教育課程について（法規、特別支援学校学習指導要領） 第１１回：校内委員会、特別支援コーディネータ、地域連携協議会の役割 第１２回：特別な教育的ニーズのある幼児、児童生徒の実態把握及び支援について 「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」について 第１３回：「合理的配慮」と「基礎的環境整備」について 第１４回：ユニバーサルデザインの授業について 障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童生徒への配慮について 第１５回：まとめと人権教育の個別課題「障害者」について
テキスト 特別支援学校学習指導要領（最新版）
参考書・参考資料等 ・文部科学省「教育支援資料」、答申や法令等の内容をまとめた資料を作成し、授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 最終レポート

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 坂田 大輔　村川 雅弘 担当形態：オムニバス

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
各科目に含めることが 必要な事項	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

授業のテーマ及び到達目標

・教育課程の概念，編成原理，類型，構造について理解する。
・我が国における教育課程の歴史的変遷について理解する。
・近年の教育課程改革に関する動向について理解する。

授業の概要

教育課程の概念，編成原理，類型，構造，及び我が国の教育課程の歴史的変遷についての講義・演習を行う。その過程では，各自の意見を述べ合う場を設け，お互いの考えを深めることが出来るようにする。

授業計画

第１回：オリエンテーション　教育課程の概念（担当：坂田・村川）
第２回：教育課程の編成原理（担当：坂田）
第３回：教育課程とカリキュラム（担当：坂田）
第４回：教育課程の類型（１）分化カリキュラムと統合カリキュラム（担当：坂田）
第５回：教育課程の類型（２）中間カリキュラム（担当：坂田）
第６回：学習指導要領に見る教育課程の変遷（１）戦前の教育課程（担当：坂田）
第７回：学習指導要領に見る教育課程の変遷（２）経験主義（担当：坂田）
第８回：学習指導要領に見る教育課程の変遷（３）教育の系統化，現代化（担当：坂田）
第９回：学習指導要領に見る教育課程の変遷（４）教育の人間化，ゆとりある充実した学校生活（担当：坂田）
第１０回：学習指導要領に見る教育課程の変遷（５）新しい学力観（担当：村川）
第１１回：学習指導要領に見る教育課程の変遷（６）ゆとりの中で生きる力を育む（担当：村川）
第１２回：現行学習指導要領における教育課程（担当：村川）
第１３回：社会に開かれた教育課程・カリキュラムマネジメント（担当：村川）
第１４回：教育課程と単元構成（担当：坂田）
第１５回：教育内容と教材，教科書（担当：坂田）

テキスト

中学校学習指導要領（最新版），高等学校学習指導要領（最新版）

参考書・参考資料等

適宜，関係資料の配付，参考文献の紹介を行う。

学生に対する評価

授業への参加態度（１５％），毎時間の小レポート（２５％），
最終レポート（６０％）により，総合的に評価する。

授業科目名：道徳教育	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：池田　誠喜 担当形態：単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		

授業のテーマ及び到達目標

道徳教育の目標と内容についての理解を深め，すべての教育活動を通してなされる道徳教育を補充・進化・統合する道徳科の具体的な指導方法を身に付ける。

授業の概要

1. 学習指導要領における道徳教育の目標・内容を理解する。
2. 道徳教育の全体計画・年間指導計画・学級における指導計画の意義を理解する。
3. 授業実践例を検討しながら，道徳科の指導方法を理解し，習得する。

授業計画

第１回：道徳の本質と道徳教育の目標

第２回：道徳教育の内容

第３回：子どもの心の成長と道徳性の発達

第４回：学級経営と道徳教育

第５回：家庭・地域社会における道徳教育

第６回：道徳教育と道徳科

第７回：道徳教育の諸計画

第８回：道徳教育の指導方法

第９回：道徳教育における自作資料

第１０回：授業実践例・資料分析（道徳の内容１・２）

第１１回：授業実践例・資料分析（道徳の内容３・４）

第１２回：道徳性を育てる体験活動

第１３回：学習指導案作成

第１４回：模擬授業

第１５回：レポート・まとめ

テキスト

「中学校学習指導要領解説　道徳編」　（最新版）

参考書・参考資料等 『よりよく生きる力を育てる道徳読み物資料集』（楠　茂宣著、東洋館出版社） 『今日からはじめる道徳教育』（楠　茂宣著、東洋館出版社）
学生に対する評価 授業への参加態度とレポートで評価する。

授業科目名： 総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 村川雅弘 担当形態： 単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		

授業のテーマ及び到達目標

本授業科目では，「総合的な学習の時間」創設の経緯や趣旨，現行学習指導要領と新学習指導要領の比較，新しい評価の考え方とポートフォリオ評価，主体的・対話的で深い学びの実現のための授業づくりの方法，地域素材および教材に関する研究，家庭や地域との連携のあり方などについて具体的に提示し，協議する。できるかぎり国内の優れた事例を取り上げていきたい。

授業の概要

①総合的な学習の時間の創設の趣旨や意義，効果について検討する
②現代的諸課題への対応や探究的な学習過程を踏まえた主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくりについて検討する
③子ども理解や支援及び評価の在り方について検討する

授業計画

第 1 回：　「総合的な学習の時間」創設の趣旨と経緯
第 2 回：　「総合的な学習の時間」に関する現行学習指導要領の比較検討
第 3 回：　主体的・対話的で深い学びを引き出す指導・支援（1）－課題発見・課題設定－
第 4 回：　主体的・対話的で深い学びを引き出す指導・支援（2）－追求・まとめ－
第 5 回：　主体的・対話的で深い学びを引き出す指導・支援（3）－発信・表現－
第 6 回：　新しい評価の考え方とポートフォリオ評価
第 7 回：　年間指導計画の作成と教科等との関連
第 8 回：　地域素材の発掘と教材化，家庭・地域との連携のあり方

テキスト

村川雅弘『子どもと教師の未来を拓く総合戦略 55』教育開発研究所，2021 年

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』（最新版）
『中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』（最新版）
『高等学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』（最新版）
その他，資料を適宜配付するので自ら綴じて整理すること。

学生に対する評価

授業への参加状況及び授業中の簡単な課題レポート、ワークショップの成果物の提出状況・記述状況から総合的に評価する。

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 岡田　康孝 担当形態：単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		

授業のテーマ及び到達目標

１　特別活動の意義，目標，教育課程における位置付け，主な内容等を理解している。

２　互いの人権を尊重する集団活動の意義を理解している。

３　合意形成に向けた話合い活動等，特別活動の指導の在り方を理解している。

授業の概要

特別活動について、これからの学校教育で求められる役割を理解し、その意義に沿った指導法について、設計、実践できる知識･技能を身につける。

授業計画

第１回：オリエンテーション

第２回：特別活動の意義

第３回：特別活動の目標

第４回：教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連

第５回：特別活動の主な内容(1) 学級活動，ホームルーム活動

第６回：特別活動の主な内容(2) 生徒会活動，学校行事

第７回：互いの人権を尊重する集団活動の意義

第８回：特別活動の指導法(1) 教育課程全体で取り組む特別活動の指導

第９回：特別活動の指導法(2) 特別活動における取組の評価・改善活動

第１０回：特別活動の指導法(3) 合意形成に向けた話合い活動の在り方

第１１回：特別活動の指導法(4) 意思決定につながる指導の在り方

第１２回：特別活動の指導法(5) 特別活動における家庭・地域等との連携の在り方

第１３回：特別活動の指導計画の作成

第１４回：特別活動の指導案の作成

第１５回： まとめ

テキスト

中学校学習指導要領（最新版），高等学校学習指導要領（最新版）

参考書・参考資料等 　適宜，関係資料の配付，参考文献の紹介を行う。
学生に対する評価 　授業への参加態度（４０％），小レポート（３０％），最終レポート（３０％）により，総合的に評価する。

授業科目名： 教育方法学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 坂田　大輔、泰山　裕 担当形態：オムニバス

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術

授業のテーマ及び到達目標

・授業構成要素である目標，内容，指導方法・学習方法，指導組織・形態，学習組織・形態，学習環境・メディア，学習評価等について，具体的な事例に基づいて理解する。

・授業の設計・実施・評価・改善のあり方について理解する。

・授業の分析方法や協議の仕方について理解する。

授業の概要

授業構成要素，授業の設計・実施・評価・工夫改善の方法について講義・演習を行う。その過程では，各自の意見を述べ合う場を設け，お互いの考えを深めることができるようにする。また，模擬授業及びその授業記録の分析，協議を通して，体験的に学ぶことができるようにする。

授業計画

第１回：教育方法学の概要（担当：坂田）
第２回：過去に経験した授業の想起に基づく授業構成要素の分類整理（担当：坂田）
第３回：授業の概念（担当：坂田）
第４回：学校教育目標の変遷（担当：泰山）
第５回：目標分析の視点（担当：泰山）
第６回：課題分析の視点（担当：泰山）
第７回：教育評価の視点（担当：泰山）
第８回：授業方法（担当：泰山）
第９回：授業の研究（担当：泰山）
第１０回：カリキュラムと単元の構成（担当：坂田）
第１１回：多様な指導組織・形態及び学習組織・形態と学習方法の工夫（担当：坂田）
第１２回：学習環境の整備とメディアの活用（担当：坂田）
第１３回：授業設計及び授業分析，授業研究（１）授業設計，模擬授業（担当：坂田）
第１４回：授業設計及び授業分析，授業研究（２）模擬授業，授業分析（担当：坂田）
第１５回：授業設計及び授業分析，授業研究（３）模擬授業，授業研究（担当：坂田）

テキスト

中学校学習指導要領（最新版）・高等学校学習指導要領（最新版）

参考書・参考資料等

適宜，関係資料の配付，参考文献の紹介を行う。

学生に対する評価
　授業への参加態度（１５％），毎時間の小レポート（２５％），
　最終レポート（６０％）により，総合的に評価する。

授業科目名：教育の情報化の理論と方法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 泰山　裕 担当形態： 単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

教育の情報化についての諸理論を理解し，授業に活かす

（１）　教育現場における情報教育の意義や理論について理解する

（２）　ICTを活用した学習指導や公務の実際と今後の在り方について理解する

（３）　情報活用能力を育成する意義，およびその育成方法を身につける

授業の概要

教育の情報化をめぐる議論を整理し，歴史的背景，現状，今後の方向性を理解する。授業における児童生徒および教員によるICT活用や授業準備，学習評価，公務における活用や教育データの活用などを取り上げる。また，情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について，その構成要素及び具体的な指導法，教育課程上の位置付けについて解説する。本科目手では，講義や事例紹介に加えて，学生自身がICTを活用し，体験的に学修する機会を儲けることを基本とする。

授業計画

第１回：オリエンテーション，現代社会におけるICTの役割

第２回：教師のICT活用指導力を高める

第３回：対話的な学びを深めるICTの活用

第４回：個別最適な学びを支えるICTの活用

第５回：校務の情報化とデータの活用

第６回：児童生徒によるICT活用・プログラミング教育

第７回：探究を支える情報活用能力とその体系的な指導

第８回：学校とテクノロジのこれから・レポート

テキスト：適宜準備する

参考書・参考資料等：ICT活用の理論と実践，北大路書房

学生に対する評価：授業への参加と最終レポートによって評価する

授業科目名： 生徒指導論（進路指導を含む）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 中上　斉，池田　誠喜 担当形態：オムニバス
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標

現代社会において青少年を取り巻く環境は極めて深刻である。学校現場においても生徒指導に関する問題が山積している。日々，その問題と教職員は対峙している。子どもが安心安全にかつ充実した学校生活を送ることができるようにするための教師の在り方を学ぶ。

そのために，次の到達目標を設定する。①いじめや校内暴力・生徒の進路等の実態を理解することができる。②生徒指導・進路指導の意義や技法等を学ぶことができる。③理想的な生徒指導・進路指導の在り方を描くことができる。

授業の概要

学校現場の生徒指導の実態や課題，問題点を新聞や参考資料を基に把握した上で，次のような内容で取り組む。①生徒指導・進路指導の基本的な理論や内容について講義を行う。②特別支援学校の参観を取り入れ，学校現場から直接学ぶ。③具体的な課題に対して，生徒指導・進路指導の知識や技法を用い，グループによる演習によって実践的に学ぶ。

授業計画

第１回：ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ，生徒指導の原理〈生徒指導の意義と重要性〉　（担当：中上・池田）
第２回：生徒指導と教育法規〈教育課程における生徒指導・進路指導の位置づけ〉　（担当：中上）
第３回：演習（ｱｻｰｼｮﾝﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ）〈自己の存在感〉　（担当：中上）
第４回：演習（構成的ｸﾞﾙｰﾌﾟｴﾝｶｳﾝﾀｰ）〈集団指導・個別指導の方法原理〉　（担当：中上）
第５回：進路指導の実践例から学ぶ〈進路指導・キャリア教育の意義・原理・実際の指導〉　（担当：中上）
第６回：演習（学校における教育相談：進路指導）〈キャリア・カウンセリング〉　（担当：中上）
第７回：生徒指導の実践例から学ぶ〈生徒指導上の課題の定義・対応〉　（担当：中上）
第８回：演習（学校における教育相談：生徒指導）〈今日的な生徒指導上の課題〉　（担当：中上）
第９回：生徒指導と特別支援教育〈特別支援学校における日々の生徒指導〉　（担当：中上）
第１０回：学校現場での観察〈特別支援学校の授業における生徒指導〉　（担当：中上）
第１１回：生徒指導における児童生徒理解〈生徒指導上の課題・教育相談〉　（担当：池田）
第１２回：生徒指導と学習指導〈各教科における生徒指導〉　（担当：池田）
第１３回：生徒指導と進路指導〈自己の存在感・規範意識・キャリア教育〉　（担当：池田）
第１４回：組織的な生徒指導〈組織的な取組の重要性〉　（担当：池田）
第１５回：レポート〈生徒指導の意義と重要性〉　（担当：中上）

テキスト

必要に応じて授業時にレジュメ・資料を配付する。

参考書・参考資料等 　文部科学省「生徒指導提要」，堀裕嗣著「生徒指導１０の原理・１００の原則」，「月刊生徒指導」，「月刊学校教育相談」，中学校学習指導要領（最新版），高等学校学習指導要領（最新版）
学生に対する評価 　各授業の課題・参加態度，最終レポート等により総合評価する。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 福森　崇貴 担当形態：単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標

教育相談の意義と必要性について考え，その上で，一人一人の生徒に効果的に関与できる力を身につける。

授業の概要

教育相談に関する基礎理論及び学校現場の実際について，実例も踏まえた上で学ぶ。

授業計画

第１回：ガイダンス ―教育相談とは何か―
第２回：カウンセリングの基本的理論
第３回：傾聴の実際（１）傾聴とは
第４回：傾聴の実際（２）傾聴の枠組み
第５回：傾聴の実際（３）傾聴の質を向上させるために
第６回：話の促し（１）質問・コメント・強調・相づち
第７回：話の促し（２）問題状況の整理
第８回：話を聴く際の姿勢・態度
第９回：相談場面の実際（１）相談場面のビデオ視聴
第１０回：相談場面の実際（２）相談場面の疑問点に答える
第１１回：生徒理解に向けて
第１２回：問題行動とその対応（１）不登校
第１３回：問題行動とその対応（２）いじめ
第１４回：保護者との関わり
第１５回：期末試験，総括

テキスト

必要に応じて資料を配布する。

参考書・参考資料等

生徒指導提要

学生に対する評価

授業への取り組みおよび課題提出（50%）と，期末試験（50%）を元に総合的に評価する。

学生に対する評価
　授業への参加態度（１５％），毎時間の小レポート（２５％），
　最終レポート（６０％）により，総合的に評価する。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（中・高）	単位数：２単位	担当教員名：中上斉，坂田大輔，片山隆志

科　目	教育実践に関する科目				
履修時期	４年次後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○

受講者数　　60 人

60人を演習内容に合わせて,中・高別グループ（1グループ8または9人），中・高各教科別グループ（1グループ最大5人），課題別グループ（1グループ8または9人）等に分け，講師として招いた現職教員，教員勤務経験者，教科及び教科の指導法に関する科目担当者と協力して指導する。

教員の連携・協力体制

教育の基礎的理解に関する科目等を担当する教員と、教科及び教科の指導法に関する科目担当者を中心として構成されている教員養成委員会の教員が、講義の実施等に際して連携・協力するとともに，徳島県教育委員会や鳴門教育大学附属中学校や徳島県立みなと高等学校等学校現場とも連携して実施する。また、学校現場の視点を取り入れる観点から、現職教員または教員勤務経験者を講師とした授業を行う。

授業の到達目標及びテーマ

大学での教育課程で学んだ理論と実践の統一を図り，実践的指導力を定着させる。
そのために，次の到達目標を設定する。
① 使命感・情熱、倫理観、学び続ける力を高める。
② HR・学級経営力（生徒理解・指導力、集団指導力、課題解決力）を高める。
③ 授業力（授業構想力、授業実践力、授業省察力）を高める。
④ 協働力（社会性・コミュニケーション力、ネットワーク構築力、危機管理力）を高める。

授業の概要

現在の学校現場を取り巻く状況から，学習指導・生徒指導・学級経営等の実務能力が主体的に身につくよう小グループでの授業を行う。また，ロールプレイングやICTを活用した模擬授業、グループ協議等を積極的に取り入れ，より実践的な授業を展開する。また，授業内容の定着が図ることができるよう自己省察と教員の評価を授業ごとに行う。

授業計画

第１回：「教職キャリアノート」を用いての振り返り及び課題把握【全体指導】
第２回：個人面談・課題に関するグループ討議〈講師：現職教員,教員勤務経験者〉
第３回：特別支援教育に関する講話【全体指導】〈講師：現職教員〉
第４回：特別支援教育に関する事例研究【中・高班別活動】〈講師：現職教員〉
第５回：課題別校外活動（学習指導，人権教育，特別支援教育）
第６回：課題別校外活動の省察【課題別班活動】，学習指導・ICT活用についての講話【全体指導】
第７回：授業づくり(ICTの効果的活用、主体的・対話的で深い学びの実現)【中・高各教科別活動】〈講師：現職教員,教員勤務経験者〉
第８回：模擬授業(ICTの効果的活用、主体的・対話的で深い学びの実現)・グループ討議【中・高各教科別活動】〈講師：現職教員,教員勤務経験者〉
第９回：模擬授業(ICTの効果的活用、主体的・対話的で深い学びの実現)・グループ討議【中・高各教科別活動】，学習指導についての講話【全体指導】
第１０回：学級経営の実務についての講話【全体指導】〈講師：現職教員,教員勤務経験者〉
学級経営案作成【中・高班別活動】〈講師：現職教員,教員勤務経験者〉
第１１回：学級・HR開きの演習【中・高班別活動】〈講師：現職教員,教員勤務経験者〉
第１２回：生徒指導についての講話【全体指導】,具体的な生徒指導場面のロールプレイング・グループ討議【中・高班別活動】〈講師：現職教員,教員勤務経験者〉
第１３回：不登校・いじめ問題等への対応，保護者対応等についてのロールプレイング・グループ討議【中・高班別活動】〈講師：現職教員,教員勤務経験者〉
第１４回：「教職実践演習」における成果と課題についてのグループ討議・個人面談
第１５回：まとめ【全体指導】

テキスト

必要に応じて授業時にレジュメ・資料を配付する。

参考書・参考資料等

適宜，参考図書資料を紹介する。

学生に対する評価

グループを担当する教員が毎回評価カード等を用いて，教師としての実践的指導力が身についたかどうか評価する。毎回の各自の省察カードや作成する指導案及び『教職キャリアノート』の記載内容も評価の対象とする。